

知と技の劇場

—華麗なるバロツク稀覯本の世界—

CASTIO,
et si tua quenque rotes renocare ad futu' labore' Vt ex
mo precedenti libro, inuenio Horoscopo' nati dudicati
n'or' institutre docuit: sic in hoc, inuenito loco Formam,
quomodo xii Athla collocanda sint, aperiet. Vt ex his
perspicue videre possis, quam falsus sit Picus Mirandula
nus, vt alibi notauius, qui significaciones xii Athlo
rum, quae proxime exposita sunt, nihil aliud quam f
iguraciones duodecim domiciliorum horoscopi esse
putavit. In eadem hæresi est illustris vir Iohannes de
Rois Hispanus. Nam in proæmio xii libri sui Planis
sphærii, hæc Maniliiana Athla duodecim domicilia gen
feos esse dicit. Quantum autem vterque falsus sit, ex dia
bus diagrammati, quæ infra posita sunt, colligi potest.
quorum alterum est thema geneficos, cuius dux est Ho
roscopus. Alterum, est xii Athlorum: quorum Dux
⊕ seu καῆρος τύχη, qui in 16. 17' n'x incidit in priore
exemplo, hoc est in themate genitute. Præterea granum
Astronomiæ studiosis me facturum putavi, si & nomen
& thema Athlorum, iam post tost secula intermoriorum &
sepultum in lucem proferrem: vt si eorum aliquem sicut
esse putauerint summi in hac doctrina viri, illis ea sequi
auctore locupletissimo M. Manilio licet.

東海大学付属図書館 第65回展示会

東海大学 湘南校舎 付属図書館展示室 (11号館1階)

2018年1月22日(月) ~ 5月26日(土) ※日・祝閉室

監修 東海大学ヨーロッパ文明学科 平野研究室

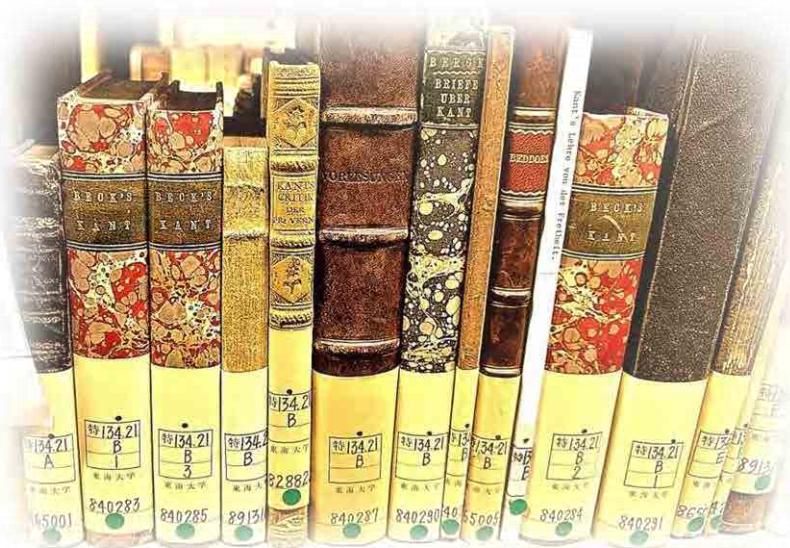
主催 東海大学付属図書館

ごあいさつ

東海大学が自らに課してきた使命の一つに、人間の精神と技術の総体である文明を究明することがあります。そのため、本学にはエジプトやアンデス古代文明の遺物を初めとし、さまざまな文明研究のためのコレクションが存在します。16世紀ルネサンスの古典学者スカリゲルのコレクションを初めとしたヨーロッパ古典籍もその一つと言えます。1500年以前、ヨーロッパで印刷された書物をインキュナブラと言います。貴重なインキュナブラは現存するものほとんどが目録化されていますが、そのうちの6点を本学付属図書館も所蔵しているのです。

この度、渋谷の Bunkamura ザ・ミュージアムの「神聖ローマ帝国皇帝 ルドルフ2世の驚異の世界展」開催にあたり、ケプラー『コペルニクス天文学要約』ほかヨーロッパ古典籍を本学より出品いたしました。そこで、タイアップ企画として、文学部ヨーロッパ文明学科の平野葉一先生にご協力いただき、「知と技術の劇場—華麗なるバロック稀観本の世界—」を付属図書館でも開催いたします。「ルドルフ2世の驚異の世界展」と合わせてご覧くださると、近代以前のヨーロッパの科学と美術の不可思議で魅力的な世界を、よりご堪能いただけると思います。

東海大学付属図書館長 伊藤一郎



目 次

展示会開催に向けて (p.1)

[1] 印刷本の登場—手写本から活字本への展開 (pp.3-6)

[2] 実験科学と工学技術 (pp.7-19)

[3] 芸術と建築 (pp.20-31)

[4] スカリゲル・コレクション (pp.32-41)

あとがき～古書が伝えるもの (p.42)

東海大学付属図書館第65回展示会

知と技の劇場～華麗なるバロック稀観本の世界

東海大学付属図書館では、2018年1月22日～5月26日に「知と技の劇場～華麗なるバロック稀観本の世界」を開催する。この展示会は渋谷 Bunkamura ミュージアムで開催されている「神聖ローマ帝国皇帝ルドルフ二世の驚異の世界展」（1月6日～3月11日）とのコラボレーション企画で、東海大学付属図書館の蔵書から16世紀～18世紀の古書を中心に紹介する。

皇帝ルドルフ二世の時代は占星術や鍊金術が最後の輝きを見せる時期で、そこでは、宇宙や天体、物質生成と変化に関して古典世界から連綿と受け継がれてきた知識や技術がさまざまな“思惑”と相俟って展開する。その“思惑”とは、大自然を支配する“秘めた力”への驚異と畏敬であり、大自然というマクロコスモスが内包する世界の意思や秩序を人間というミクロコスモスのなかに取り込もうとする意識である。この時代は、ルネサンスのヒューマニズムを経て磨かれた知識と技術を受け継ぎ、人間を大自然のなかに位置付けようとする思想、文化がダイナミックに花開いた一場面を演出し、同時に次の近代科学を準備するのである。

今日では、近代科学が創始された時期は「科学革命」と呼ばれ、その主としてコペルニクスやケプラー、ニュートンの名が挙げられる。科学の対象は自然である。それも物理的な自然が対象であり、人間の外にある自然を客観的にかつ論理的な視点で眺める。その範囲は地球上にある小さな石、植物、動物から山や海、宇宙の天体に至るまで様々である。人間の科学はこうした自然の対象を観察し、その性質を知り、ときには加工して自らの生活に役立てようとしてきた。

しかし、科学は一朝一夕に出来上がったものではない。むしろ、古代から人間精神のなかで醸成された自然への意識が、長い年月をかけて泉の底から湧き上がるようにして徐々に科学の姿へと形作られたということができる。その意識の芽生えはすでにバビロニアやエジプトでも見られ、古代ギリシアからローマ、中世を経て展開する。とくにルネサンスは人間の叡智が際立った時期であった。精密な機械の設計、遠近法などの表現技法などを考えてみても、技術や芸術にも人間の手による調和といった特徴が見出される。神性を備えた自然が人間の手で開かれていく様は、一方では古典精神を尊重し、他方ではそれを乗り越えようとする人間活動を描き出す。それでも、その過程には神の世界と現実世界の間で彷徨する人間の姿が見出され、それはそのまま次のバロックへと引き継がれる。

バロックとはこうした時代であった。この語は一般には芸術諸活動の様式を総称するが、人間の知的活動の一端としては、まさに古代の神秘科学から近代科学への橋渡しの時期である。古代のバビロニアやエジプトあるいはギリシアやローマの鍊金術や天文学、占星術といった神秘主義的な知識と技術から、ベーコンやニュート

ン流の実証主義的な諸科学への転換期を意味する。そこでは、自然が再び魔術、宗教、哲学の視点から解き明かされ、同時に実験などの実践を伴って、やがては近代科学への扉を開けようとする。そうした人間の叡智は時代を切り開くほど遅い。それぞれの時代ごとの知識に合わせて技術を生み出し、その技術がさらに新たな知見を見出してきたのであり、まさに「知と技の劇場」である。

この展示会では、東海大学付属図書館が所蔵する貴重なコレクションから、バロックの時代に出版された科学や技術に関する古書を紹介する。全体は 4 セクションから構成される。

[1] 印刷本の登場

古書の展示という意味で、先ずは図書の成立の一端を覗いてみる。かつて印刷術が登場する以前は、文字を一つずつ手で“描いていく”手写本の世界であった。ヨーロッパ大陸での画期的な変化は 15 世紀中頃のグーテンベルグによる活版印刷術の導入に始まる。彼の『聖書』の出版こそ次の時代の図書文化の発露となる。

[2] 実験科学と工学技術

バロックという時代は、ある意味で近代科学の黎明期ともいいうことができる。そこでは、神秘と現実が相俟った思考が展開する。実験科学や技術といつても、アグリコラのように今日の科学や技術につながるものもあれば、キルヒャーのように奇怪な様相を呈するものもある。

[3]芸術と建築

ヨーロッパにおける建築の歴史は古代ローマの建築家ウィトルウィウスの『建築書』（*De architectura*）に始まるとされる。とくにルネサンスの天才たちによって甦った古典建築の世界はマニエリズム以降の理論家たちにも継承され、さらにバロック期において数多の図版を伴って華麗な展開を見せる。ここではそうした建築理論に関するさまざまな稀観本を紹介する。

[4]スカリゲル・コレクション

東海大学付属図書館には「スカリゲル・コレクション」と呼ばれる一連の図書が所蔵されている。これは、16 世紀の人文学者、古典学者スカリゲルが収集した当時の文献 200 冊をライデン大学から譲渡されたもので、今回は初めての公開展示となる。

自然の背後に隠された“秘めた力”をも人間自らが取り込もうとするバロックのダイナミズムはこうした精神に支えられている。そこでの「人間の知と技」にはまさに“華麗”と形容される至高の人間営為が見出される。この展示会ではこうした精神をもつ稀観本を紹介する。

東海大学文学部ヨーロッパ文明学科平野研究室
(平野葉一)

[1] 印刷本の登場—手写本から活字本への展開

図書館には多くの書物が所蔵されている。今日では書物という「活字本」(あるいは活版本)である。すなわち、活字で組まれた版(現在では電子データから起こした版)によって印刷、製本された書物である。しかし、印刷術が導入される以前は書物は文字を一つひとつ手で書いてつくられていた。これが「手写本」である。

ヨーロッパで最初に活版印刷を導入したのはグーテンベルグ (Johannes Gutenberg: 14C.末 - 1468) であったとされる。グーテンベルグは 1445 年頃までには活版印刷術を考案して印刷機を製造し、1450 年代の半ば頃に『聖書』の印刷を行っている。活版印刷術の導入は書物の世界に大革新をもたらした。それまでは、古典書は人間が写本によって後世に伝えてきた。また、王や貴族などへの献呈本などは装飾を施した手写本などがつくられていた。しかし、印刷技術の展開によって、ルネサンス期には短期間に数多くの書籍が出版されるようになったのである。いつの時代でも書籍は知を保存し、伝達する役割を担っているが、印刷技術はまさに知の拡散、普及に大きな貢献を果たしたのである。

今回の展示で紹介している稀観本もすべてが活字本である。今日われわれが数百年も前の知識を振り返ることができるのも、印刷技術によって数多くの書籍が出版され伝えられたことに負うところが大きい。

本展示では、グーテンベルグの『聖書』(復刻版、一葉のみ実物)を紹介している。また、これも復刻版ではあるが、ルカ・パチヨーリ (Luca Pacioli) の『神聖比例論』(Divina proportione) の手写本 (1498 年) と活字本 (1509 年) の双方も展示している。

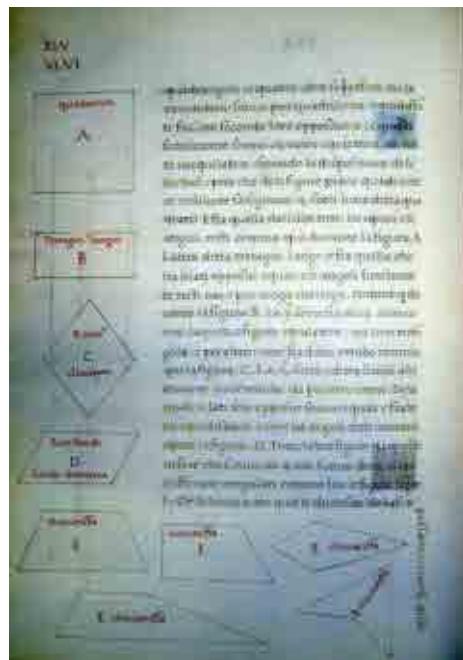
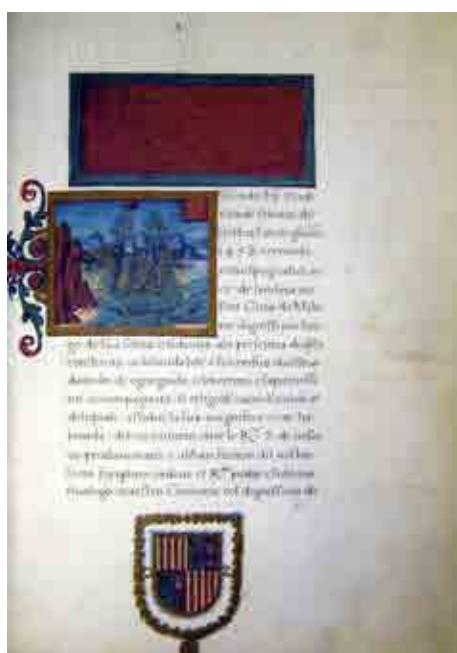
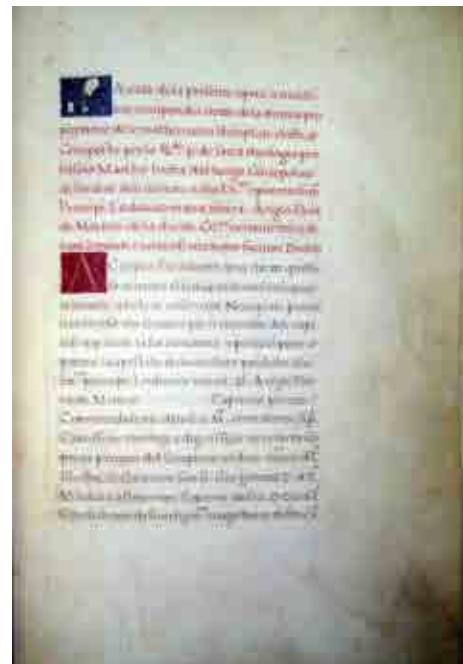
■展示してあるグーテンベルグ聖書:

1. Die zweiundvierzigzeilige Bibel / [Johann Gutenberg]
München : Idion, 1977-1979, 45-46cm
2. A noble fragment : being a leaf of the Gutenberg Bible, 1450-1455
New York : G. Wells, 1921, 41cm

■10世紀ビザンチンの旧約聖書(ヨシュア・ロール)(1983年の復刻)

3. Josua-Rolle, Codex Vaticanus Pal. Graec. 431 : Facsimile (Codices e Vaticanis selecti v. 43) (Codices selecti phototypice impressi v. 77) Graz : Akademische Druck- u. Verlagsanstalt , c1983

◇ 手写本から活字本へ ◇



■パチョーリ:『神聖比例論』(1498年手写本の1982年復刻版)

4. De divina proportione / Luca Pacioli ; introduzione di Augusto Marinoni (Fontes Ambrosiani / in lucem editi cura et studio Bibliothecae Ambrosianae, 72) ,Milano : Silvana , c1982 (reprint), 30cm

※パチョーリ(Luca Pacioli)がGiangaleazzo Sanaeverinoに献呈した手写本(復刻版)



■パチョーリ:『神聖比例論』(1509年活字本の1973年復刻版)↑

5. *Divina proportione : opera a tutti gl'ingegni perspicaci e curiosi necessaria oue ciascun studioso di philosophia, prospectiua pictura sculptura, architectura, musica, e altre mathematice, suauissima, sottile, e admirabile doctrina consequira, e delectarassi, cō varie questione de secretissima scientia* / Antonio Capella eruditiss. Recensente, Venetiis: [Paganino Paganini], 1509 [Tokyo: Bunryu Reprint, 1973], 33cm

※パチョーリが1509年に活字本で出版した版の東京、文流リプリントによる復刻版(ファクシミリ版)

■パチョーリ:『神聖比例論』(1509年活字本の仏語訳1988年内の原典の復刻版)→

6. *Divine proportion : œuvre nécessaire à tous les esprits perspicaces et curieux, où chacun de ceux qui aiment à étudier la philosophie, la perspective, la peinture, la sculpture, l'architecture, la musique et les autres disciplines mathématiques, trouvera une très délicate, subtile et admirable doctrine et se délectera de diverses questions touchant une très secrète science* / [Luca Pacioli ; traduction de G. Duchesne et M. Giraud, avec la collaboration de M.-T. Sarrade], [Paris] : Libr. du Compagnonnage, 1988, 30cm





■ユークリッド「原論」 パチョーリ版(1509年)

※2018年4月1日より展示 (3月31日まで松前記念館2階に展示)

Euclidis Megarensis, philosophi acutissimi mathematicorumque omnium sine controversia principis opera Campano interprete fidissimo tralata Que cum antea librarij detestanda culpa mēdis fedissimis adeo deformia esēnt: ... [edited by Luca Pacioli], Venetiis : A. Paganinus Paganinus charac- teribus elegantissimis accuratissime imprimēbat, 1509, 144p.; 30cm.

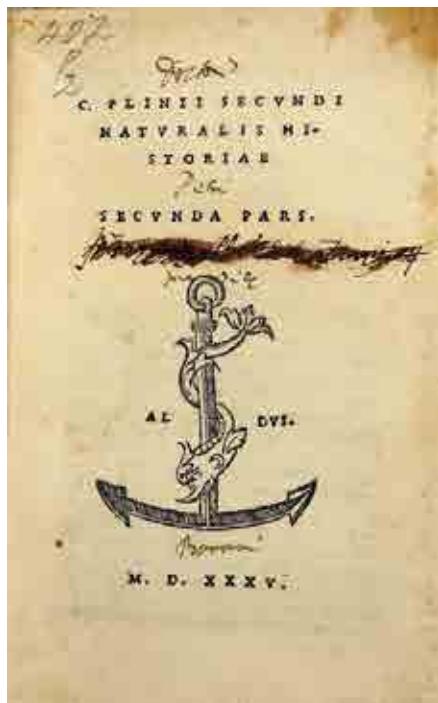
※ユークリッド(Euclid, Eukleides)は紀元前300年頃のアレキサンドリアの数学学者。当時まで古代ギリシアで培われた数学や幾何学の内容を体系的に整理した『原論』(原題はストイケイア)を編纂した。『原論』は定義、公理を基礎に命題を順に論証する形(命題の連鎖)で整理した書。アラビア世界にも伝えられるが、ルネサンス期にはギリシア語版だけではなくラテン語版など数多くの版が出版された。上の書はレオナルド・ダ・ヴィンチとも親交があったパチョーリが出版した版。

[2] 実験科学と工学技術

古代人にとって自然は畏敬の対象であった。宇宙というマクロコスモスは、その生命的秩序を人間内奥のミクロコスモスへと反映させる。こうして宇宙の意思は人間の手に委ねられ、鍊金術や占星術へと向かう—古代人の“神秘的思惑”を込めた叡智である。ルネサンスを経て磨き上げられた技術は、古代の思惑とともに活気を取り戻す。それは近代科学の黎明をも意味するが、バロックとはそうした時代であった。今日の科学は“理論”と“実験”的融合からなる。しかし、正統な理論以前に、古代の秘めた知識のなかでさまざまな技術—奇抜ともいえる技術も含めて—が展開される。まさに「知と技の劇場」である。

■プリニウス『博物誌』

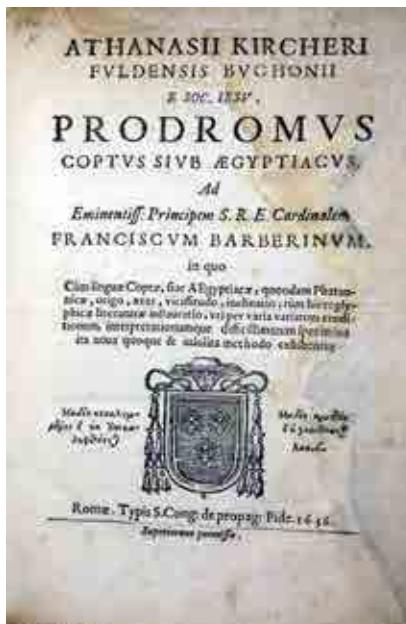
7. C. Plinii Secundi Natvrae historiarum libri XXXVII E castigationibus Hermolai Barbari :
Qvam emendatissime editi / Additus est ad maiorem studiosorum commoditatem, index
Ioannis Camertis Minoritani, quo Plynius ipse totus breui mora temporis edisci potest
8. C. Plinii Secundi Natvralis historiae Venetiis, In aedibvs haeredv m Aldi, et Andreae
Asvlani socii, 1535–1538, 16 cm (↓)



※ガイウス・プリニウス・セクンドゥス(Gaius Plinius Secundus:AD 23-79)はローマの博物学者(大プリニウス)。本書は動物学や植物学から天文学、鉱物学、医学にまでわたる広範な内容を含む。ルネサンスまでの貴重な博物学書。

◇アタナシウス・キルヒャー(Athanasius Kircher: 1601-1680)は今日のドイツ出身の学者。医学や地質学を含む幅広い分野において実験や観察を中心とした実践的な科学的研究を行っている。しかし、純粋な自然の記述にとどまらず、人間精神との関連や神秘主義的な内容にまで及んでいる。その意味では、時代的にも自然科学と自然魔術の双方にまたがる研究者ということができる。また、キルヒャーは古典研究としてエジプトや中国に関する研究にも従事し、とくにエジプトに関しては古代語やオベリスク、ヒエログリフ研究を進めている。“*Ars Magna Lucis et umbrae*”(1645-1646)／『光と影の大きいなる術』、“*Musugia universalis, sive ars magna consoni et dissoni*”(1650)／『普遍音楽』の著作で知られる。

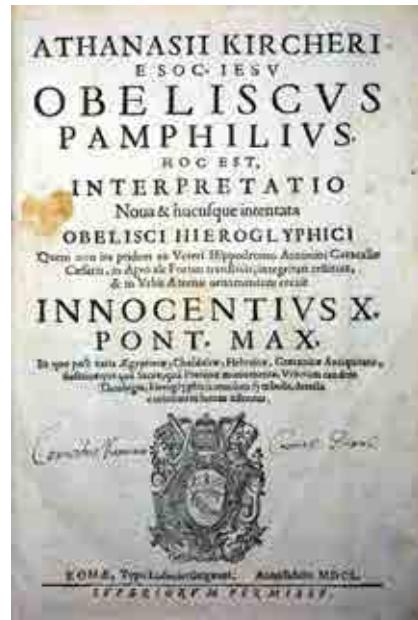
「展示書籍は 9, 10, 15.」



■キルヒヤーのエジプト研究書(1636年)

9. Athanasii Kircheri ... Prodromvs coptvs sive
ægyptiacvs ...: in quo cùm linguæ coptæ, siue
aegyptiacæ, quondam pharaonicæ, origo, ætas,
vicissitudo, inclinatio; t ùm hieroglyphicæ literaturæ
instauratio, vti per varia variarum eruditionum,
interpretationumque difficillimarum specimina, ita
noua quoque & insolita methodo exhibentur ...,
Venetiis, : In aedibvs haeredvm Aldi, et Andreæ
Asylani soceri. 1636

Cap. II. De Numeris Copitatum.			Cap. II. De Numeris Copitatum.
CAPIT. II.			317
De Numeris Copitatum.			
Num.	Vnum	X	
Uno	Uno	I	
Teria	Trii	T	
Thessapra	Thessapae	X	4
Quinti	Quinti	C	5
Ex	Ex	V	6
Septem	Septem	Z	7
Ocio	Ocio	H	8
Octo	Octo	S	9
Decem	Decem	I	10
Vindicta	Vindicta	XI	11
Duodecim	Duodecim	E	12
Decimtri	Decimtri	Pi	13
Quindecim	Quindecim	ZI	14
Quindecim	Quindecim	C	15
Sexages	Sexages	V	16
Serpendem			Z
Octodecim			H
Novendecim			S
Viginti			T
Viginti Vnum			U
Viginti duo			II
Viginti tria			III
Viginti quatuor			IV
Et sic de ceteris vigeat ad 50.			
Triginta			X
Quadrages			III
Quinquages			II
Sexages			Z
Septages			U
Octages			H
Nonages			Q
Centum			P
Ducena			C



■キルヒャーのエジプト研究書(1650年)

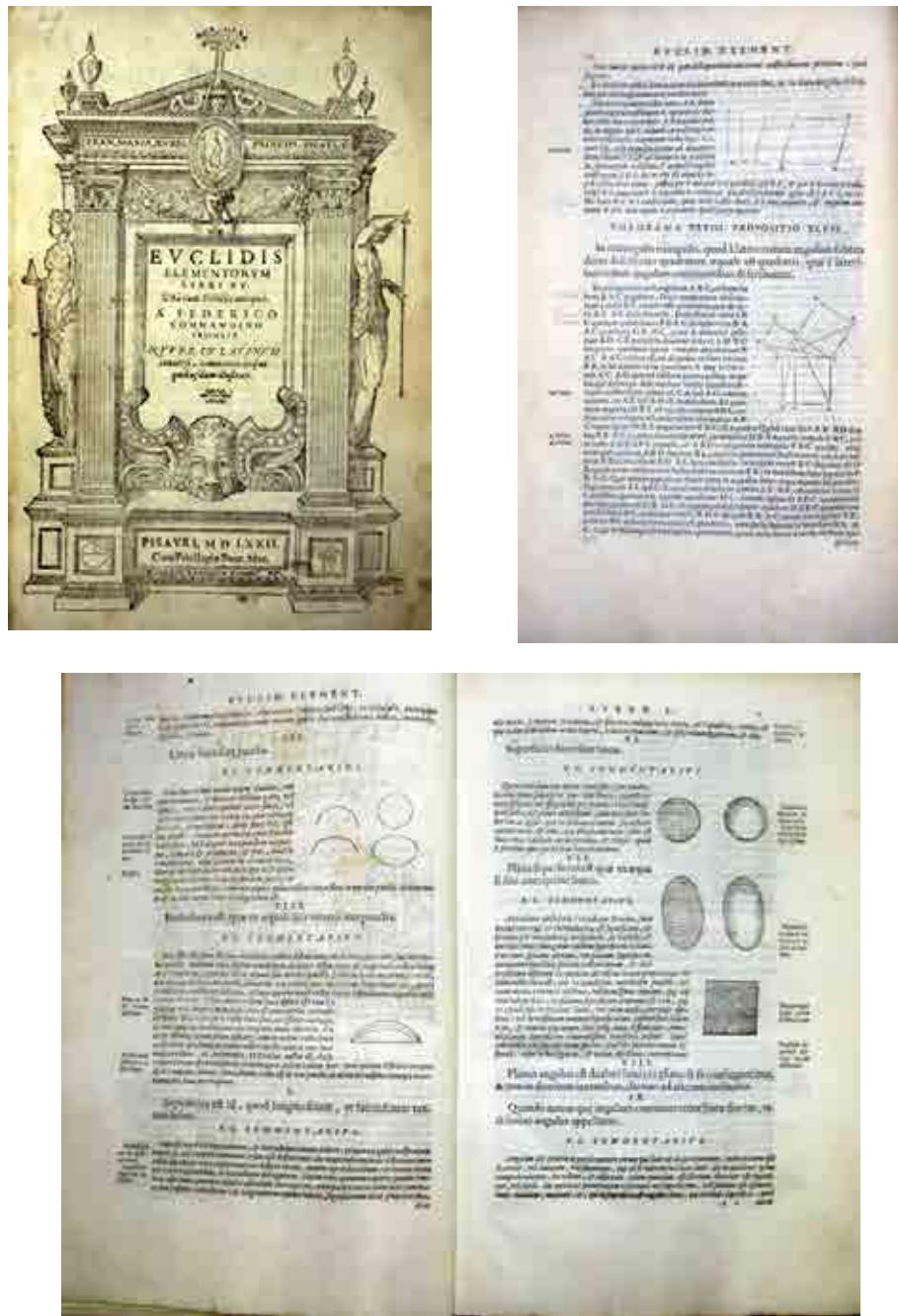
10. Athanassi Kircheri e Soc. Iesv. *Obeliscus pamphilivs, hoc est, interpretatio noua & hucusque intentata obelisci hieroglyphici quem non ita pridem ex Veteri Hippodromo Antonini Caracallae Cæsar, in agonale forum transtulit, integratati restituit & in vrbis Aeternæ ornamentum erexit Innocentivs X. Pont. Max. In quo post varia Aegyptiacæ, Chaldaicæ, Hebraicæ, Graecanicæ antiquitatis, doctrinæ que quæ sacræ, quæ profanæ monumenta, veterum tandem theo, Romæ : Typis Ludouici Grignani, Anno iubilei MDCL [1650]*



■タルタリアの工学書(1554年)

11. *Quesiti et inventioni diverse de Nicolo Tartaglia, di novo restampati con una gionta al sesto libro ..., [Venetia] : appreso de l'auttore, 1554, 20 cm*

※タルタリア、本名をニコロ・フォンタナ (Niccolò Fontana, Tartaglia":1499(1500?-1557)はイタリアの数学者、工学技術者。古代ギリシアのアルキメデスやユークリッドの著作をイタリア語訳するなど、数学に関する著作で知られる。とくに、今日“カルダノの解法”とされる3次方程式の解法に関しては、もともとはタルタリアの解法であったという説もある。ここで紹介する書は、1546年の初版に続く第2版で、工学における数学の応用について記されたもので、重力やつり合いなどの力学的内容を含む。とくに、軍事的な大砲の弾道についてはその後の弾道学の基礎を築いたとされている。

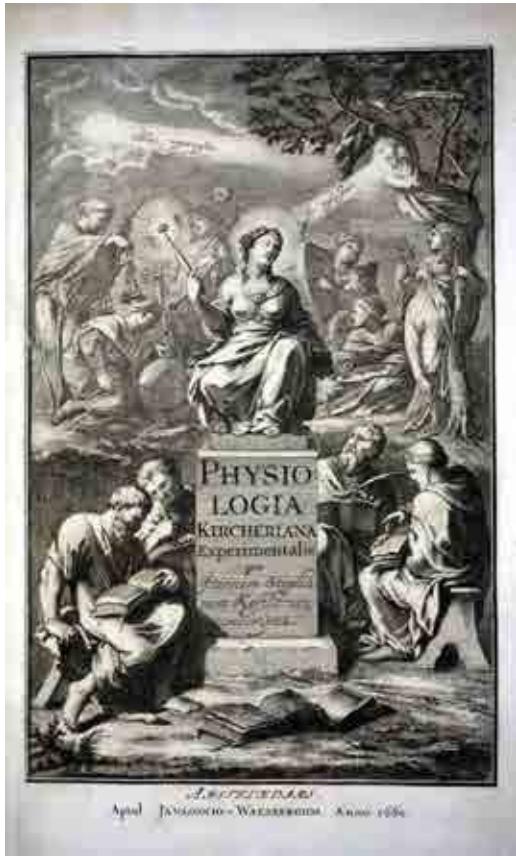


■ユークリッド『原論』(コマンディーノ版 1572 年)

12. Euclidis Elementorum libri XV. / Unà cum scholijs antiquis à Federico Commandino ...
nuper in latinum conversi, commentarijsque quibusdam illustrate, Pisauri : Jacobus,
1572, 32 cm (※ユークリッド『原論』に関しては p.6 参照)

* * * * *

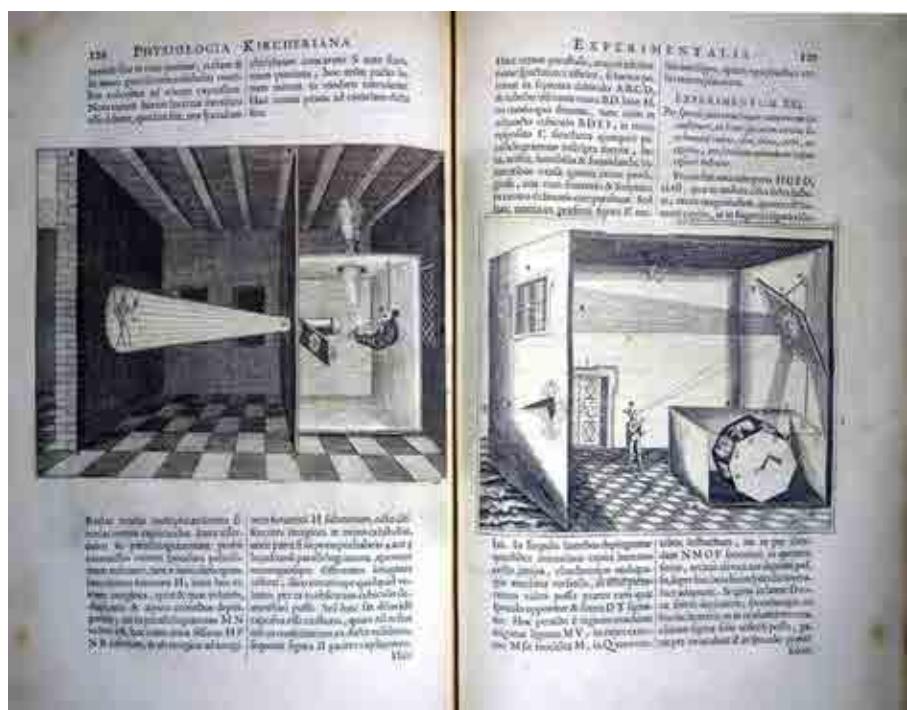
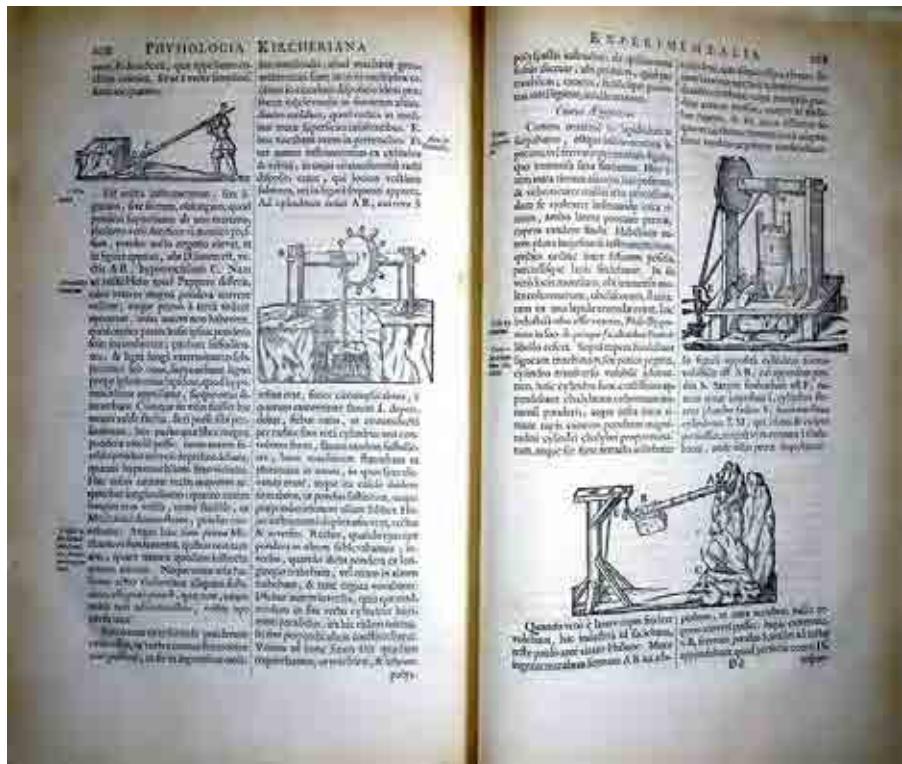
■13., 14. ウィトルウィウス『建築書』 ⇒ pp.20-22 参照

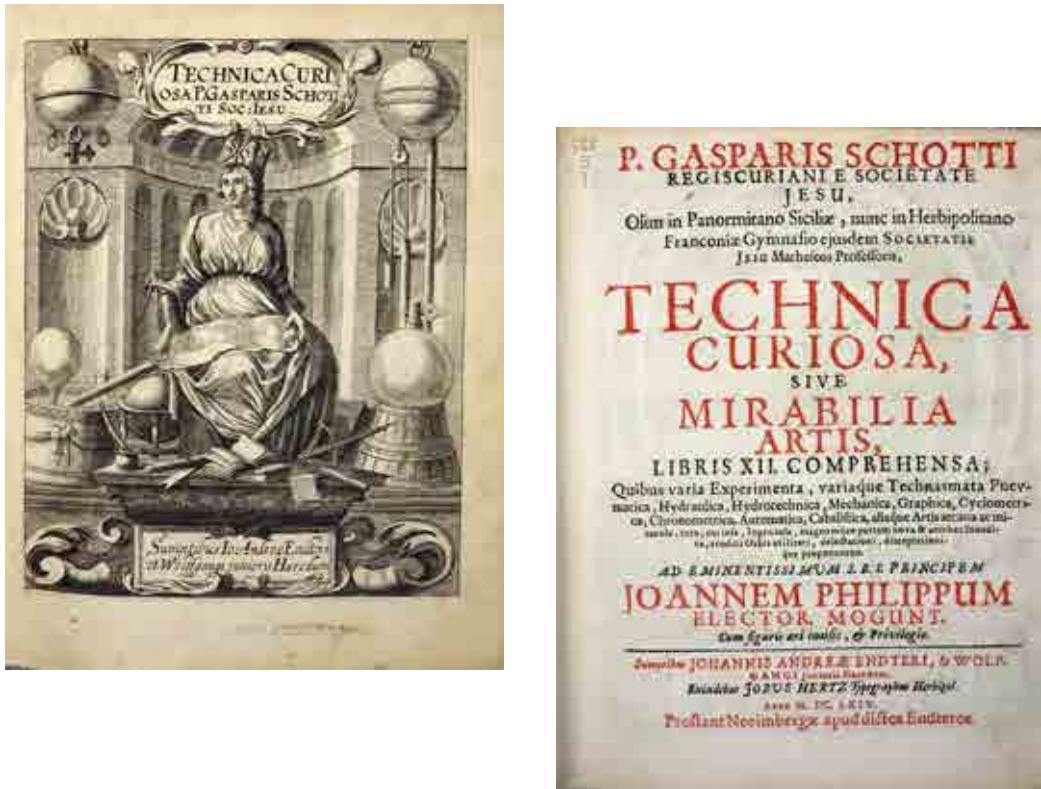


■キルヒャーの『実験科学』(1680年)[次頁も同様]

15. *Physiologia Kircheriana experimentalis, qua summa argumentorum multitudine & varietate naturalium rerum scientia per experimenta physica, mathematica, medica, chymica, musica, magnetica, mechanica comprobatur atque stabilitur: quam ex vastis operibus / Adm. Revdi. P. Athanasii Kircheri, extraxit, & in hunc ordinem per classes redegit Romae, anno M.DC.LXXV; Joannes Stephanus Kestlerus Alsata, Amstelodami: Ex officina Janssonio-Waesbergiana, 1680, 38 cm*

※キルヒャーが行った実験を弟子のケストラーが簡潔にまとめた科学的著作。

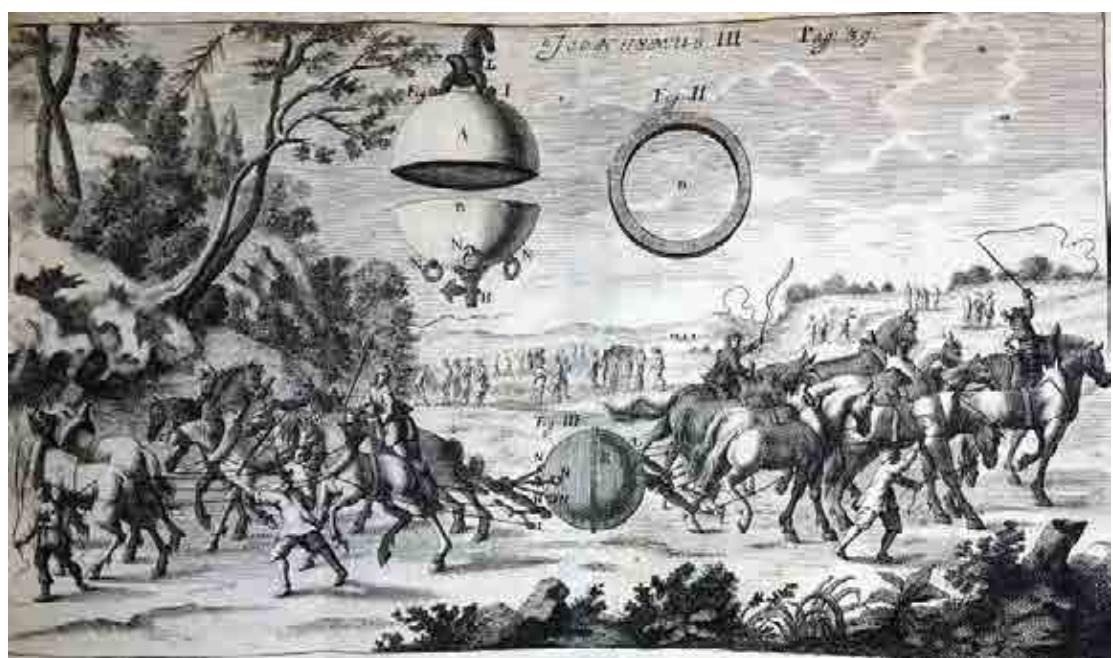
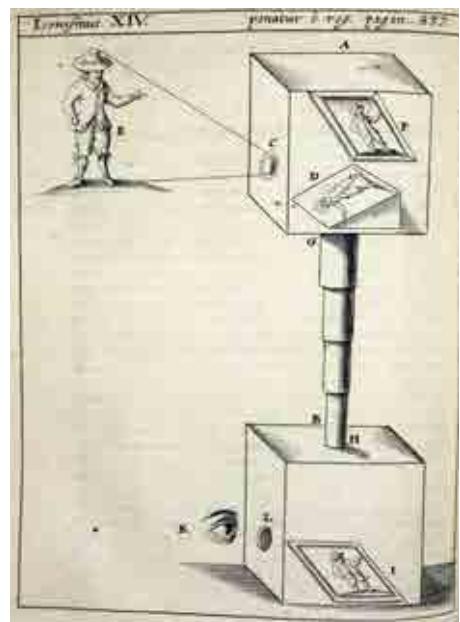


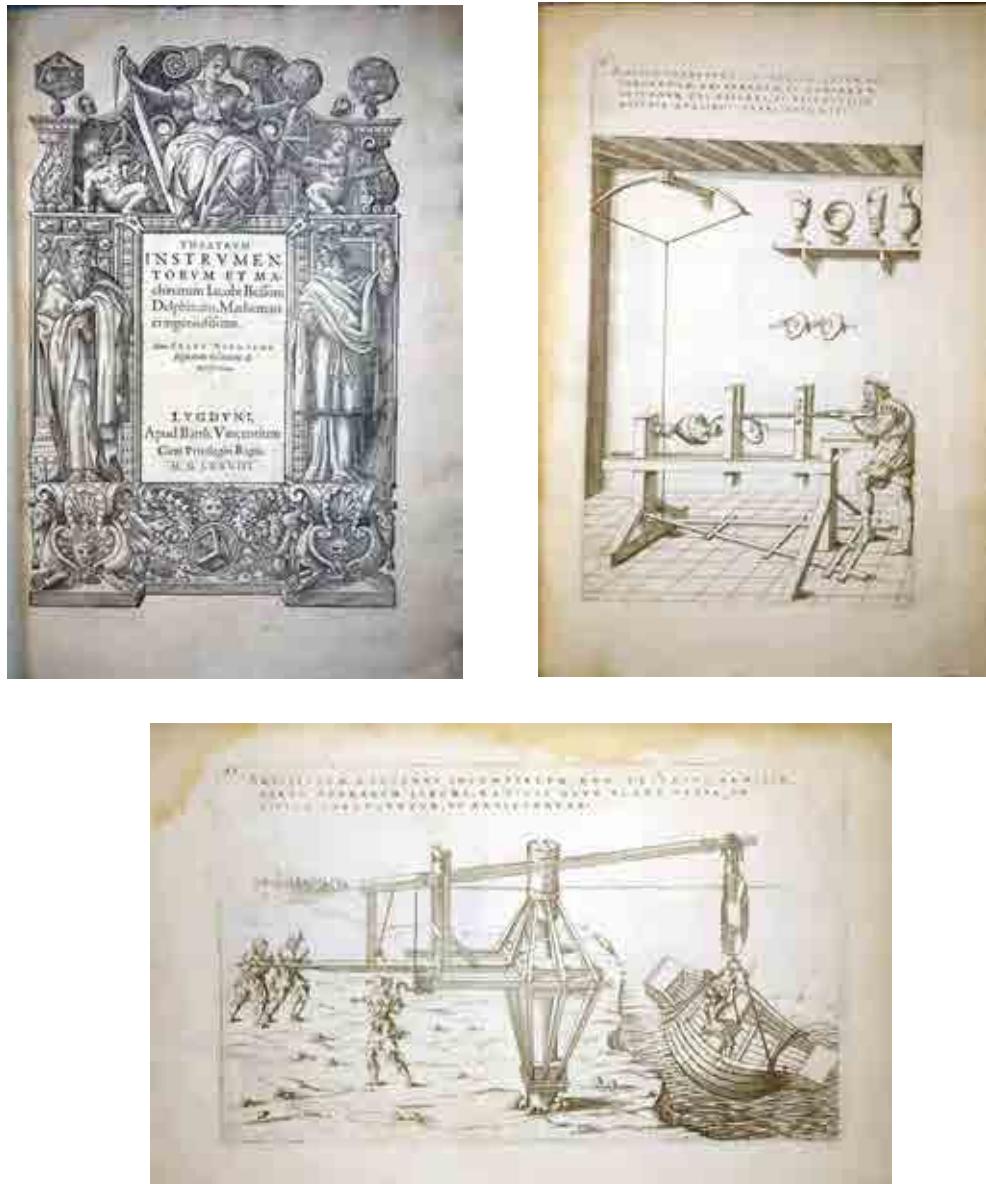


■ガスパール・ショットによる技術書『奇妙な技術』(1664年) [次頁も同様]

16. P. Gasparis Schotti regiscurianie societate jesu, Olim in Panormitano siciliæ, nunc in Heribopolitano Franconiaæ Gymnasio ejusdem societatis jesu matheseos professoris, Technica curiosa, sive Mirabilia artis, libris XII. comprehensa; quibus varia experimenta, variaque technasmata pnevmatica, hydraulic, hydrotechnica, mechanica, graphica, cyclometrica, chronometrica, automatica, cabalistica, aliaque artis arcana acmiracula, rara, curiosa, ingeniosa, magnamque partem nova & antehacinaudita, eruditæ orbis utilitati, delectationi, disceptationique proponuntur. ad eminentissimum S.R.I. principem Joannem Philippum Elector. Mogunt. Cum figuris aeri insisis, & privilegio / P. Gasparis Schotti, Norimbergæ: sumptibus Johannis Andreæ Endteri, & Wolfgangi junioris hæredum, excudebat Jobus Hertz, typographus heribopol, 1664, 22 cm

※キルヒャーの弟子であるイエズス会司祭ガスパール・ショット(Gaspar Schott: 1608-1666)は数学や物理学などの自然科学の研究者。次頁の図は 1654 年にオットー・フォン・ゲーリケ(Otto von Guericke: 1602-1685)が行った大気圧に関する「マグデブルクの半球実験」で、2 つの半球を合わせて内部を真空状態にし 16 頭の馬に引かせている場面が描かれている。





■ジャック・ベッソンの『機械の劇場』(1578年)

17. Theatrvm instrvmentorvm et machinarum Iacobi Bessoni ... / Cum Franc. Beroaldi figurarum declaratiue demonstratiua ; [Besson, Jacques], vgdvni : Apud Barth. Vincentium, 1578, 40 cm

※フランスの技術者であるジャック・ベッソン(Jacques Besson: ?-1569)によって機械や工具についてまとめられた便覧で、初版は1569年であるが本書はその1578年版。ルネサンス期にはさまざまな機械が研究された。たとえば、ブルネレスキはフィレンツェのドゥオモの建設の際に今日のクレーンに類する機械を考案しているし、レオナルド・ダ・ヴィンチは機械の部分(機械要素)を精確なデッサンとして描き出している。ルネサンス後は技術者の多くが互いに学び合い、さまざまな技術の進展を見る。



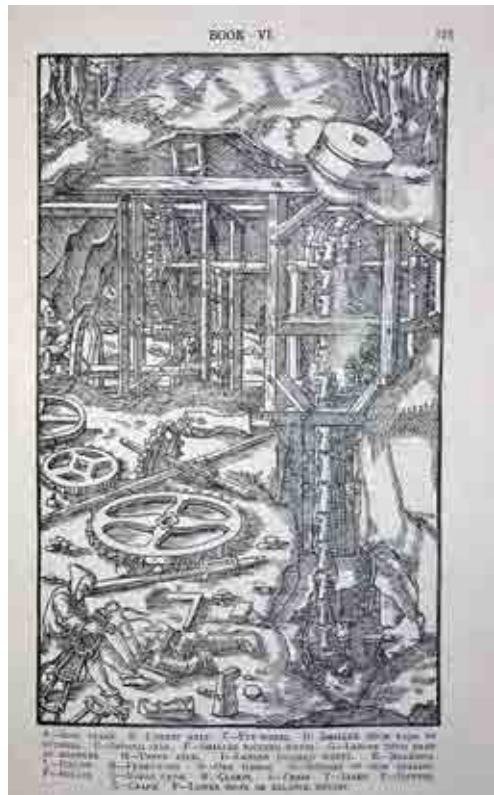
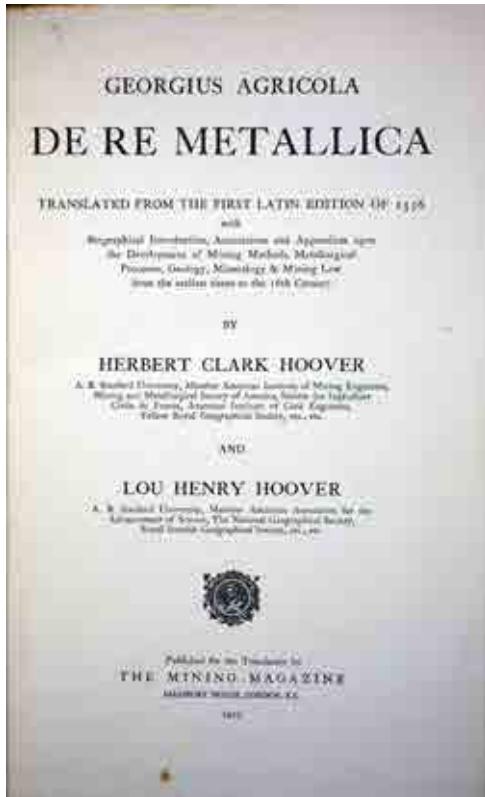
■ビリングッチの『火工技術ハンドブック』
(1559年)

18. Pirotechnia ... nella quale si tratta non solo della diversità delle minere, ma anche di quanto si ricerca alla pratica di esse. E di quanto l'appartiene all'arte della fusione, getto, de metalli.
FIRE, CAMPAÑA, E RTATEGLIERIE, suuobi artificiati, & altre diversi cose utilissime.
NUOVAMENTE CORRETTA, ET RISTAMPATA. Con la tavola delle cose notabili.
LXXXI

IN VENETIA
Appresso P. Gironimo Giglio, e compagni.
M. D. L. I. X.

※ビリングッチ(Vannoccio Biringucci: 1480-1537)はイタリアの鉱物学者。鉱物の採掘および冶金に関して研究し、火器や火薬の製造など軍事技術にも従事した。“Pirotechnia”は「火工術」を意味する。初版はビリングッチの死後3年経った1540年で、その後も何度も再版された。本書は1550年の第2版に続く第3版。

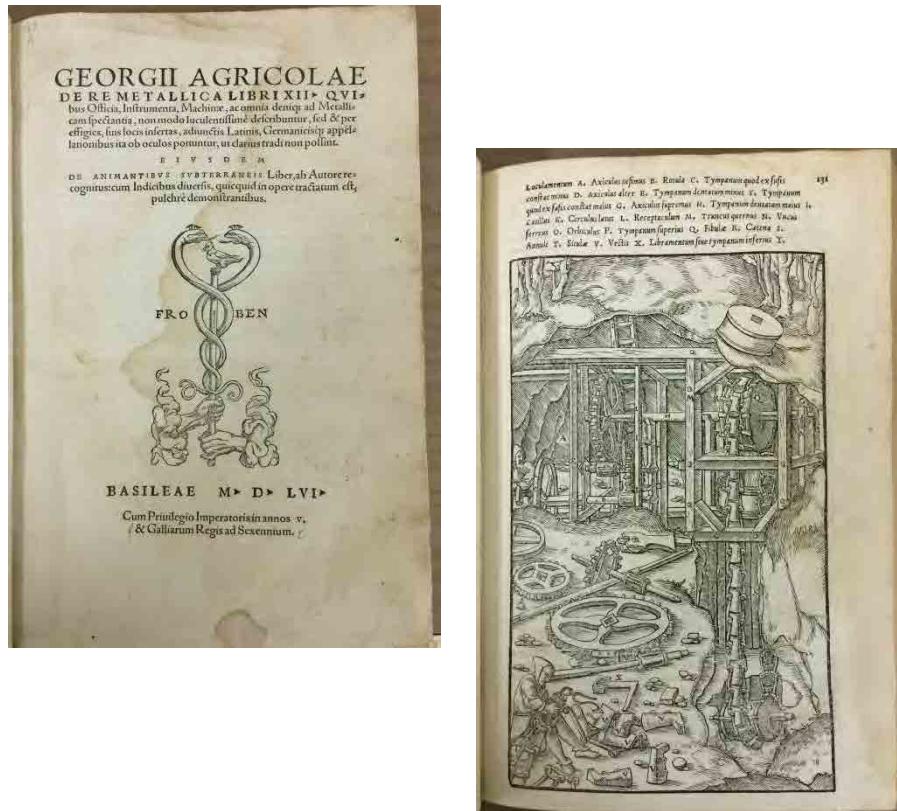




■アグリコラの『金属について』(原典 1556 年、英訳 1912 年)

19a. *De re metallica / Georgius Agricola ; translated from the first Latin edition of 1556 with biographical introduction, annotations and appendices upon ... by Herbert Clark Hoover and Lou Henry Hoover, London : Mining Magazin, 1912, 35 cm*

※ゲオルク・アグリコラ(Georg Agricola: 1494-c.1555)はドイツの鉱物学者であるが、鉱山学や医学、人文学など幅広い分野に精通していた。『金属について』では、鉱山での採掘の経験をもとに鉱山や鉱脈、採掘道具や方法、金属、卑金属の分類を含む冶金技術について詳細を記されている。本書は 1530 年頃から書き始められていたとされるが、ビリングッヒの著作からおよそ 15 年後の 1550 年に出版されている。その後数多くの翻訳が出されるが、展示の書はフーヴァー夫妻による 1912 年の英訳版。



■アグリコラの“De re Metallica”の原典(1556年)

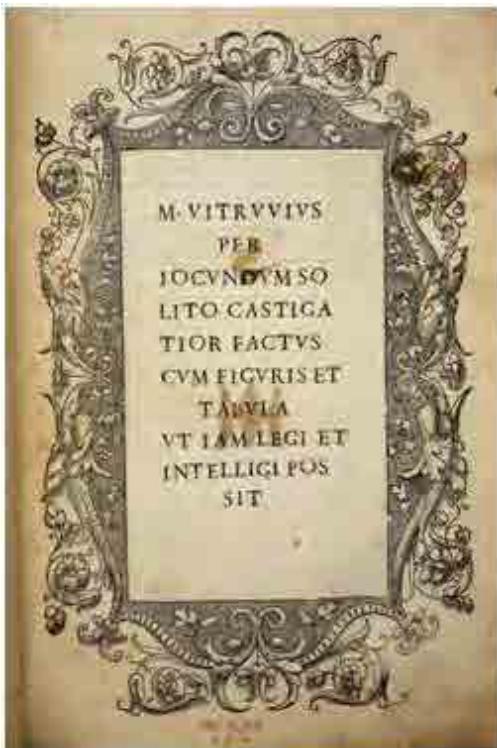
19b. Georgii Agricolae De re metallica : libri XII. qvibus officia, instrumenta, machinae, ac omnia deni ad metallicam spectantia, non modo luculentissimè describuntur, sed & per effigies, suis locis insertas, adiunctis latinis, germanicis appellationibus ita ob oculos ponuntur, ut clarius tradi non possint. Eivsdem De animantibvs svtterraneis liber, ab autore recognitus: cum indicibus diuersis, quicquid in opere tractatum est, pulchre demonstrantibus. [Agricola, Georg]. -- [Apvd Hieron Frobenivm et Nicolavm Episcopivm], 1556.

[3] 芸術と建築

ヨーロッパ文明における建築理論の歴史は、古代ローマの建築家ヴィトルウィウス (Marcus Vitruvius Pollio, 前1世紀)の『建築書』(De architectura)に始まるとする。『建築書』は今日の私たちが手にすることができるヨーロッパ最古の建築理論書であり、古代における建築術はもちろん、当時のさまざまな技術や自然科学に関する知識をも網羅した重要な古典文献の一つに数えられる。後世への影響も大きく、特に古典復興を謳うルネサンス期には、レオナルド・ダ・ヴィンチ (Leonardo da Vinci, 1452-1519) やアルブレヒト・デューラー (Albrecht Dürer, 1471-1528) といった当時を代表する芸術家たちによって盛んに研究された。また、盛期ルネサンスの建築家の巨匠ドナート・ブラマンテ (Donato Bramante, 1444-1514) は、こうした気運の中で実際にローマ建築を基礎とする古典様式を確立する。

ルネサンス期における古典研究の成果はやがて、ジャコモ・バロッツィ・ダ・ヴィニョーラ (Giacomo Barozzi da Vignola, 1507-1573) やアンドレーア・パッラーディオ (Andrea Palladio, 1508-1580) といったマニエリスム以降の理論家たちにも継承される。以下では、主として 16~17 世紀のイタリアで出版された建築理論に関するさまざまな稀観本を紹介する。いずれの理論も古典的な建築技法を扱うもので、ヴィトルウィウスの建築論をその議論の出発点としている。『建築書』において提起され、ルネサンスの天才たちによって新たにみがえった古典的建築世界が、さらに数多くの図版を伴って華麗な展開を見せたのがバロック期であったともいふことができる。

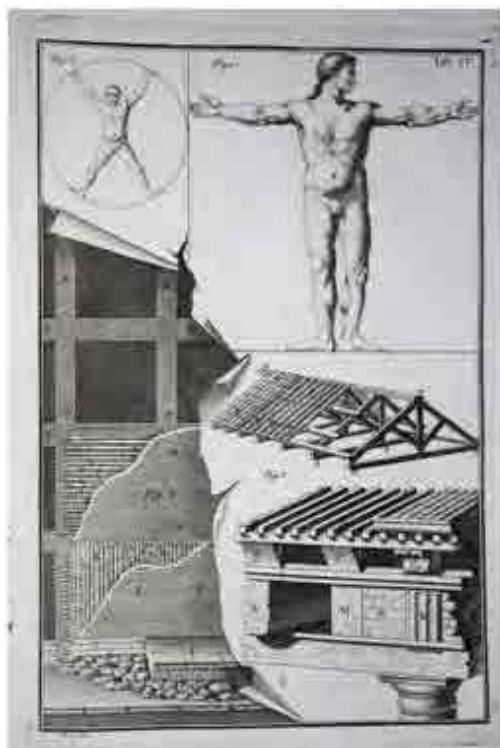
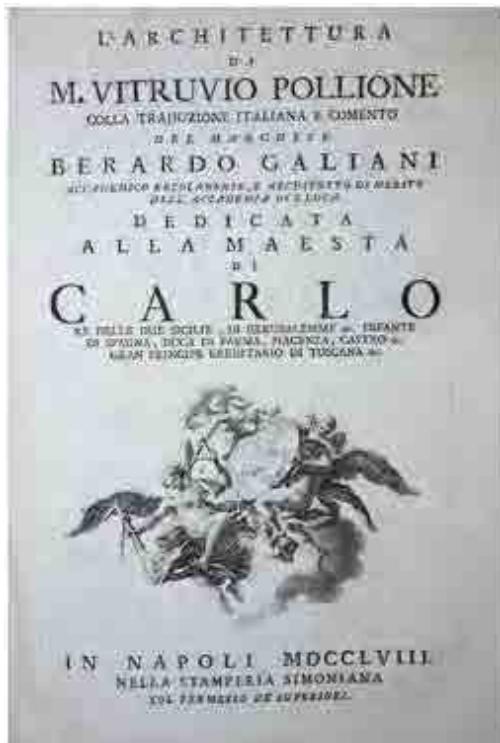
古典的建築理論は 19 世紀以降の技術の急速な発展にともなって、やがてその技術指南書としての価値を失っていく。しかし、ヨーロッパ文明が永い時をかけて育んだ一つの文化的伝統として、また、人間が生み出した知と技の歴史の一面としても、その価値は色褪せることなく今日にまで伝えられている。



■ ウィトルウィウス『建築書』(1511年)

13. M. Vitrvvius per Iocvndvm solito castigatior factvs cvm figvris et tabvla, vt iam legi
et intelligi possit. [Ioannis de Tridino alias Tacuino], 1511.

※1511年出版のラテン語版



■ ウィトルウィウス『建築書』(1758年)

14. L'architettura di M. Vitruvio Pollione / colla traduzione italiana e comento del marchese Berardo Galiani. ; [Vitruvius Pollio.]. -- Stamperia Simoniana, 1758.
※1758年出版のイタリア語版

◇ジョルジオ・ヴァザーリ

ジョルジオ・ヴァザーリ(Giorgio Vasari, 1511-1574)は自身、画家・建築家として活躍したほか、ルネサンス期を中心とする、およそ 200 人に及ぶイタリアの芸術家たちの評伝を著し、「最初の美術史家」とも称される。この『列伝』は美術史研究において今日なお第一級の史料的価値を有し、日本語にも翻訳されている。



■ジョルジオ・ヴァザーリ『画家・彫刻家・建築家列伝』(1550 年、初版)

20. Le vite de piv eccellenti architetti, pittori, et scvltori italiani : da Cimabve insino a' tempi nostri : descritte in lingua Toscana / da Giorgio Vasari pittore aretino, convna sua vtile & necessaria introduzzione a le arti loro; 1-2, 3. – Torrentino, 1550.

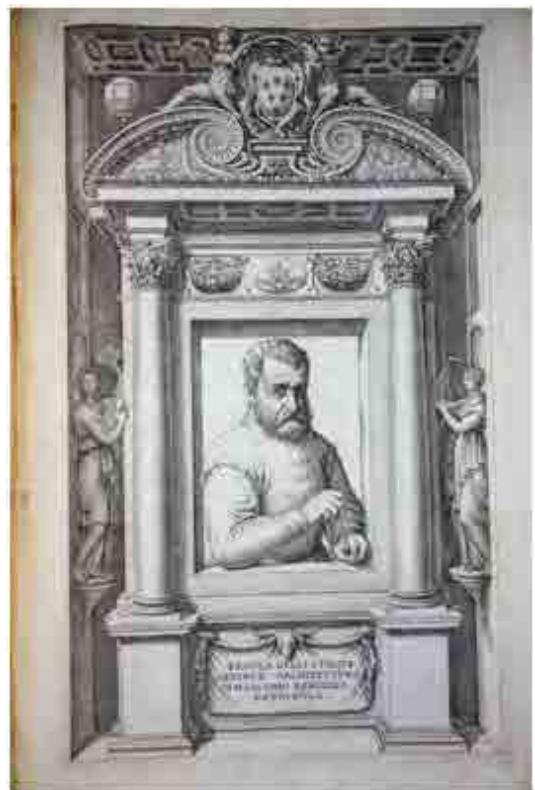
※1550 年のトレントイノ版(初版)



■ジョルジョ・ヴァザーリ『画家・彫刻家・建築家列伝』(1568年)

21. Le vite de' piv eccellenti pittori, scvltori, e architettori / scritte, da M. Giorgio Vasari pittore et architetto aretino, di nuouo dal Medesimo riuiste et ampliate con i ritratti loro et con l'aggiunta delle Vite de' viui, & de'morti dall'anno 1550. in sino al 1567 ; 1-2, 3-1, 3-2. -- Appresso i Givnti, 1568.

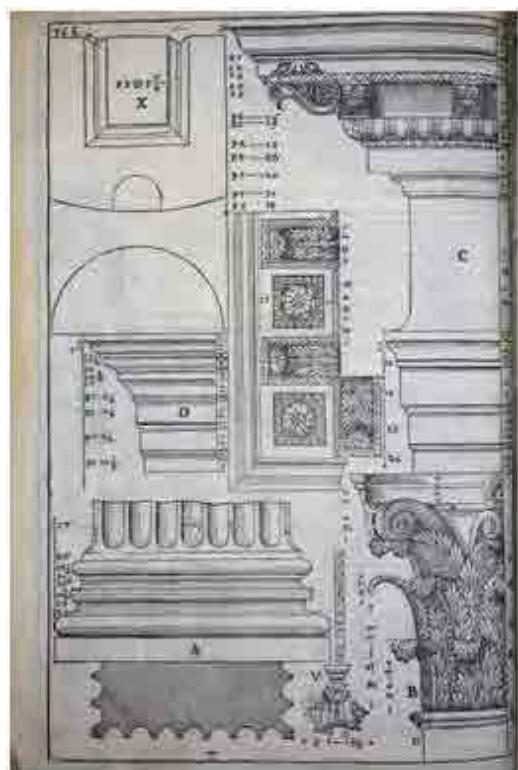
※1568年の、ジュンティ版



■16世紀の建築書(ラバッコとヴィニョーラ)(1557年)

22. *Libro d' Antonio Labacco appartenente a l'architettura: nel qual si figvrano alcune notabili antiquita di Roma/* [Labacco, Antonio]. *Regola delli cinqve ordini d' architettura/* di M. Iacomo Barozzi da Vignola. -- Impresso in Roma, 1557.

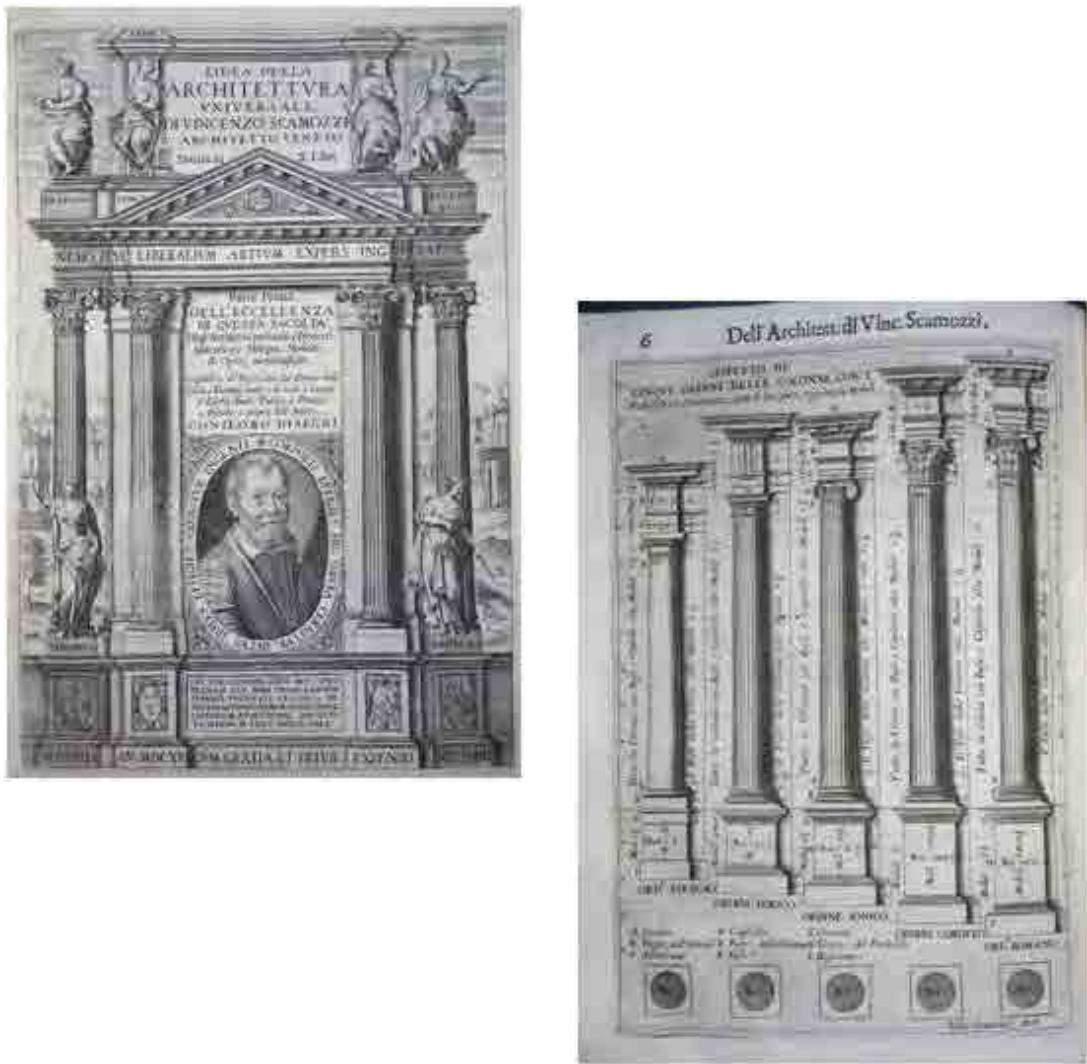
※16世紀イタリアの建築家アントニオ・ラバッコ(Antonio Labacco, 1495-1570)による建築論文集と、マニエリスムを代表する建築家ジャコモ・バロッツィ・ダ・ヴィニョーラ(Giacomo Barozzi da Vignola, 1507-1573)による古典建築様式についての著作『建築の5つのオーダーに関する規則』(1557年、ローマ)からなる。



■パッラーディオによる『建築四書』(1570 年)

23. Quattro libri : dell' architettura / di Andrea Palladio ; ne' quali, dopo un breue trattato de' cinque ordini, & di quelli auertimenti, che sono piu necessarii nel fabricare ; si tratta delle case private, delle vie, de i ponti, delle piazze, de i xisti, et de' tempii ; con privilegi.
— Appresso Dominico de' Franceschi, 1570.

※16世紀イタリアを代表する建築家の一人、アンドレーア・パッラーディオ(Andrea Palladio, 1508-1580)によってヴェネツィアで出版された建築理論書。『建築四書』の名で知られ、後世に大きな影響を及ぼした。



■スカモツィの『普遍的建築の理念』(1615年)

24. *L'idea della architettura universale / di Vincenzo Scamozzi ... diuisa in X libri .. ;*

[Scamozzi, Vincenzo]. – expensis avtoris, 1615.

※ヴェネツィアで活動したルネサンス後期の建築家であるヴィンチェンツォ・スカモツィ(Vincenzo Scamozzi, 1552–1618)が著した建築書。パッラーディオの影響が色濃い。



■セルリオによる『建築書』(1619年)

25. *Tutte l'opere d'architettura, et prospetiva, di Sebastiano Serlio Bolognese ... -- appresso Giacomo de' Franceschi, 1619.*

※イタリアの画家・建築家であり、建築理論家としても知られるセbastiano・セルリオ (Sebastiano Serlio, 1475-1554) によってヴェネツィアで出版された著名な書。

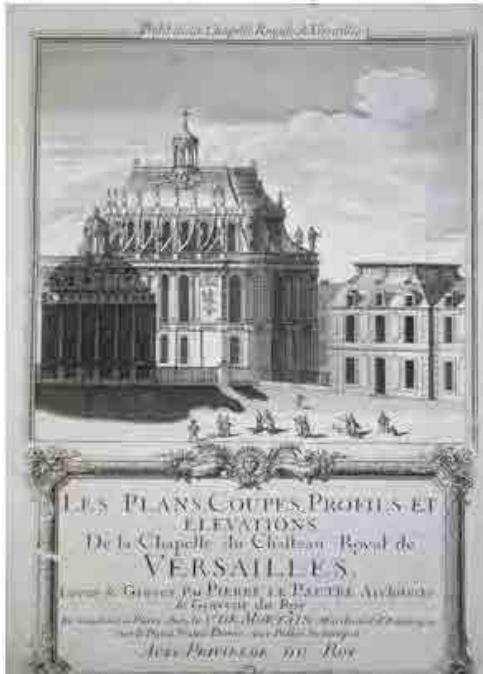
* * * * *

◇築城術、要塞建築に関する本

■クーホルンの『築城術』(1705年)

26. *The new method of fortification / Minno baron of Koehoorn ; translated from the original Dutch, by Tho Savery. -- printed for Daniel Midwinter, 1705.*

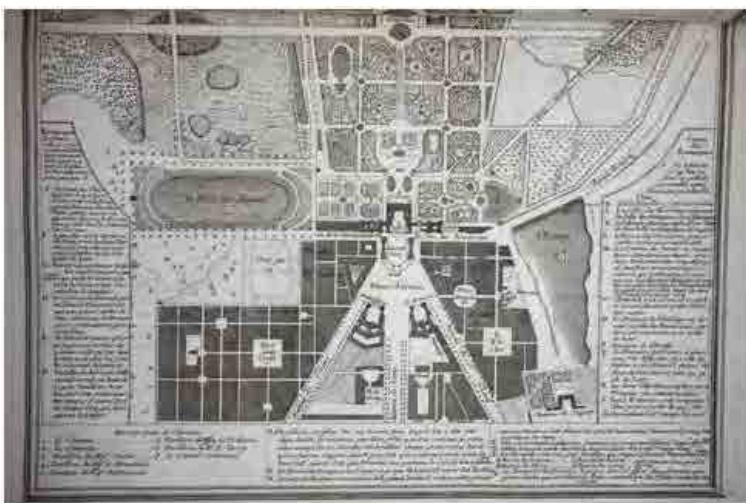
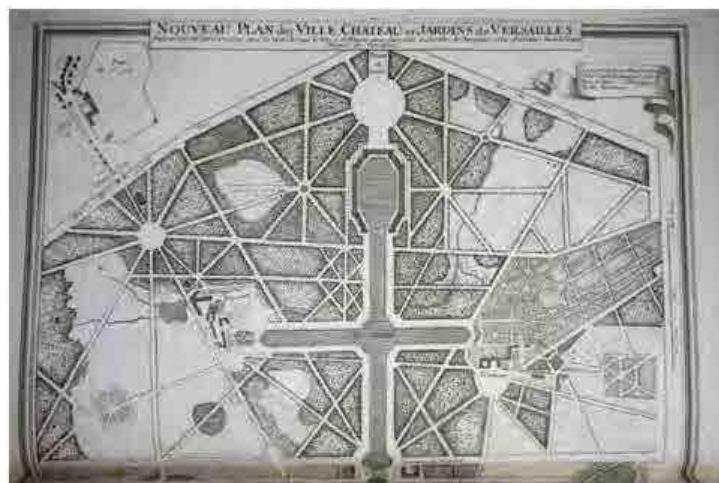
※クーホルン (Menno, baron van Coehorn: 1641-1704) はオランダの軍人、軍事学者。

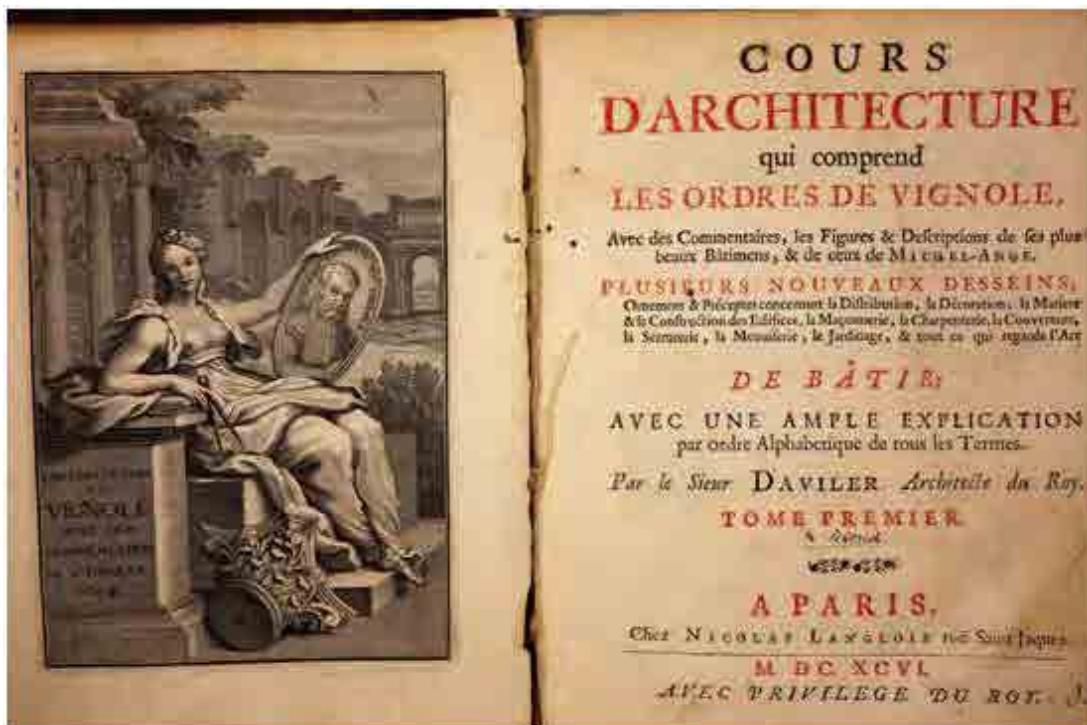


■ポートルによる『ヴェルサイユ宮殿の図版集(1714年)』[次頁も同様]

27. Les plans, profiles, et elevations, des
ville, et Château de Versailles, avec
les Bosquets, et Fontaines tels qu'ils
sont a present; levez sur les lieux;
dessiner et graver en 1714 et 1715 /
[levez & gravez par Pierre Le Pautre].
– Chez Demortain, 1714.

※フランスの彫刻家・室内装飾家ピエール・ル・ポートルによる1715年刊行のヴェルサイユ宮殿の平面図、断面図などの図集。

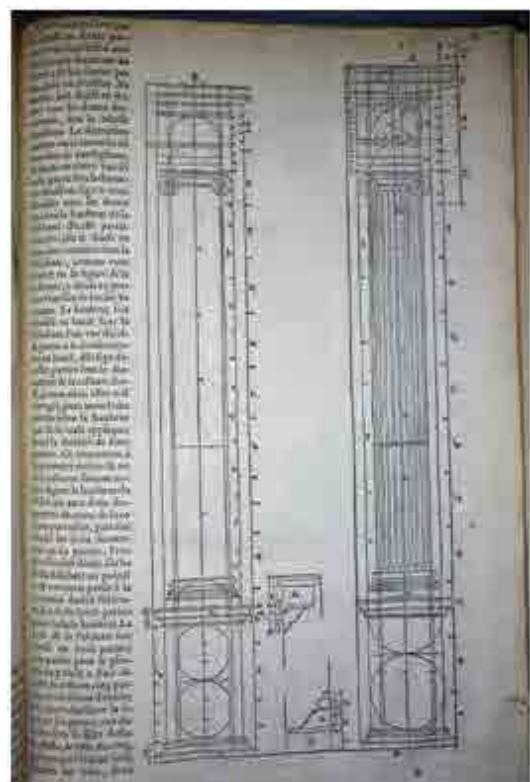




■ヴィニョーラの“建築規則”を含む『建築書』(1694年)

28. Cours d'architecture : qui comprend les ordres de Vignole, avec des commentaires, les figures & descriptions de ses plus beaux bâtimens, & de ceux de Michel-Ange. Plusieurs nouveaux desseins, ornement & préceptes concernant la distribution ... & tout ce qui regarde l'art de bâtir ; avec une ample explication par ordre alphabetique de tous les termes. / par le sieur Daviler ; tome premier. -- N.Langlois, 1694.

※ヴィニョーラ(Giacomo Barozzi da Vignola: 1507-1573)はイタリアのマニエリスム代表する建築家で、イタリア・ルネサンス様式を広めた一人。ヴィニョーラは建築書『建築の5つのオーダー』の著者として知られるが、本書はその内容を含む建築教則で、ダヴィレが1694年に出版した書。



■ビュランの『建築の一般規則』(1568 年)

29. *Regle generale d'architecture des cinq manieres de colonnes, à scquoir, Tuscan, Dorique, Ionique, Corinthe, & Cōposite ... / a escouët par Iehan Bullant -- De l'Imprimerie de Hierosme de Marnef & Guillaume Cauellat, au mont S. Hilaire à l'enseigne du Pelican, 1568.*

※フランスの建築家・著述家のジャン・ビュラン (Jean Bullant: c.1515–1578) の主著。イオニア式・コリント式などの建築様式について扱う。

[4] スカリゲル・コレクションの蔵書

Scaliger Collection

◇スカリゲル・コレクション

東海大学付属図書館が所蔵するコレクションの一つで、フランスの古典学者で後にオランダのライデン大学教授となったスカリゲル(Joseph Justus Scaliger: 1540-1609)が収集した書物を中心とする。スカリゲルはラテン語やギリシア語ならびにヘブライ語やアラビア語に精通し、一方では近代的文学批評の基礎の確立を目指し、他方では年代史記述のすべてを統合して古代世界の全体像を描くという構想を抱いていた。スカリゲルはこうした幅広い視野をもって、古典研究を含む書物を収集したが、彼自身も古代末期の年代記の校訂版“*De emendatione temporum*”(1583)、エウセビオスの「年譜(クロニコン)」のギリシア語原文の復元を試みた「年代宝鑑 “*Thesaurus temporum*” (1606) を著している。

“スカリゲル・コレクション”は Leiden University library(ライデン大学図書館)旧所蔵で、全体で約 200 冊から構成される。その大部分が 16 世紀後半から 17 世紀に出版された資料で、スカリゲルの主要な作品とスカリゲルについての研究書も含まれる。また、このコレクションの各資料について詳細な書誌的説明を記載した付属資料“Smitskamp, R. / *The Scaliger Collection*, Leiden, Smitskamp Oriental Antiquarium, 1993”が付されている。

Scaliger, Joseph Justus (1540-1609)

フランス、アジャン生まれ。父は古典研究者にして、医学・文法・哲学・植物学・動物学・文学にも精通したユリウス・カエサル・スカリゲル Julius Caesar Scaliger (1484-1558) の Scaliger, Julias Caesar (1484-1558)。イタリア貴族の出身であったとされる。パリで学び、プロテスタントとなり、ヨーロッパ諸国を周遊した。Scaliger は当時の最も博学な学者のうちの一人であり、近代的学問、特に人文学・古典研究においての先駆者でありまた、ルネサンスにおける“万能の人のうちの最後の一人”でもあった。Scaliger の学術研究は同時代の学者同様広範にわたる。特に、古典や言語学において卓越した知識を有し、当時はもとより 19 世紀の学者にも高く評価された。

1579 年にローマの天文学者 Manilius について著し、天文学と数学においても高度に精通していたことを示している。歴史家でもあり、1583 年に初版が刊行された Scaliger の最もよく知られた著作 “*De emendatione temporum*” 『暦の訂正について』は古代末期の年代記の訂正版であり、時間計算の方法に関する研究書である。西洋の古典言語であるギリシア語、ラテン語のみならず、ヘブライ語やアラビア語などその歴史においても高い教養を示した。1572 年 Scaliger 32 歳の時にジェノヴァで哲学教授に任命される。晩年 1593 年オランダのライデン大学教授となる。1609 年に没する。

◇スカリゲルによる「マニリウス研究」

スカリゲルのコレクションには、天文学とくに古代ローマのマニリウスに関する研究書が含まれている。これらはいずれもスカルゲル自身による研究で、マニリウスの天文学、占星術に関する紹介がなされ、何度か版を重ねている。

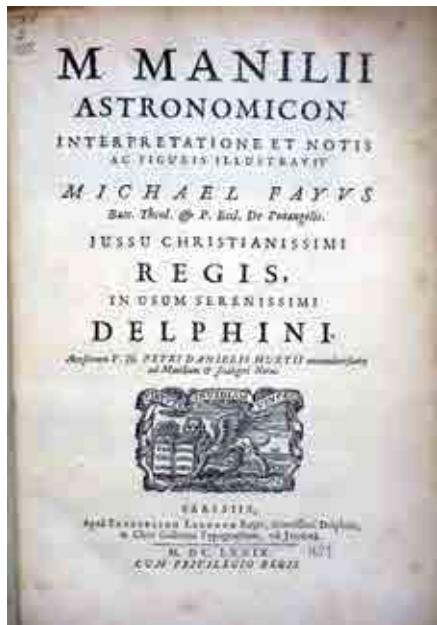
マルクス・マニリウス(Marcus Manilius)は紀元1世紀のローマの天文学者、占星術師で、『アストロノミコン』(Astronomicon)あるいは『アストロノミカ』(Astronomica)と呼ばれる占星術に関する5巻の詩編を残したとされる。むしろ、ローマの占星術はマニリウスに始まり、マニリウスによって確立されたという説もあるが、実際にはその根拠は明確ではない。

バビロニアなどの古代世界では、当初は天体によって国や為政者の運勢を占う“天変占星術”が行われた。その後の古代ギリシアでは、天の運動が自然界の物質や動植物と関連付けられ、鍊金術と相俟って神秘主義的な装いを見せる。しかし、古代ローマの時代になると、人々の運勢と結びついた“宿命占星術”が登場する—いわゆる“星占い”である。

古代ローマの占星術で重要な役割を果たすのは「黄道十二宮」である。天球上で太陽の軌道を黄道という。黄道は地球の赤道面から傾いているが、その黄道上を十二の宮に分け、それぞれに対応する星座を用いるのが占星術の基礎となる。星座には殆どに動物の名がつけられたことから、この黄道付近の星座が位置する帶を「獣帶」という。この「黄道十二宮」を見出したのがマニリウスであったとされており、その意味でマニリウスが古代ローマの占星術の祖であるとされる。

今日では、古代の天文学の偉大なる功績はクラウディウス・ポトレマイオス(Klaudios Ptolemaios: c. 2C.)に帰される。ポトレマイオスが天文学(astronomy)に関する著名な書『アルマゲスト』を著し、後世に大きな影響を与えたからである。その一方で、ポトレマイオスは占星術(astrology)に関する著作『テトラビブロス』をも著わしている。天文学は天体の正確な位置を与え、その上で占星術によって天体が地上やそこに住まう人々に与える影響を占う—それは“マクロコスモス”と“ミクロコスモス”が織りなす世界観の表れである。

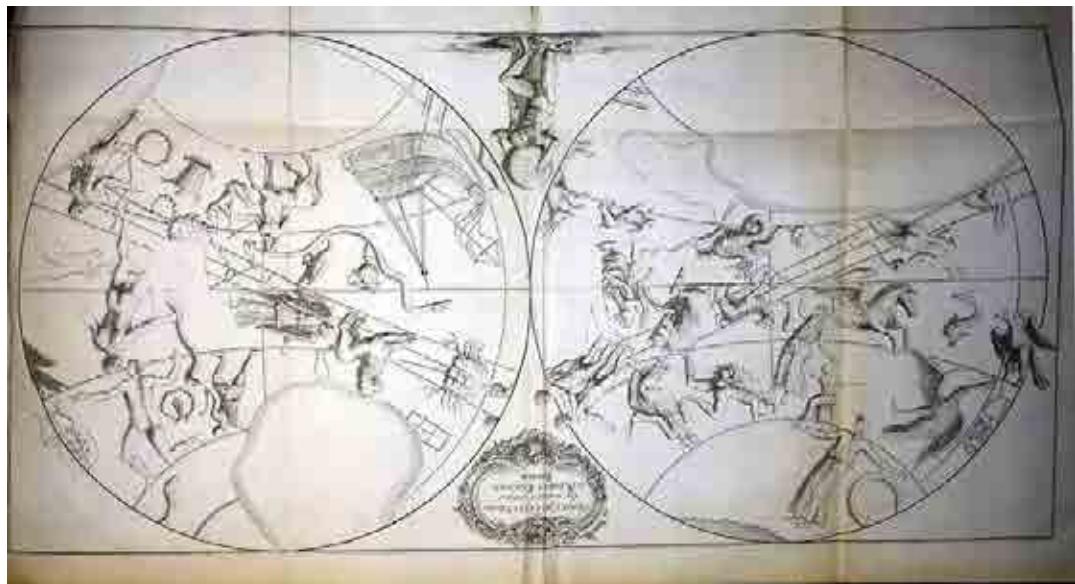
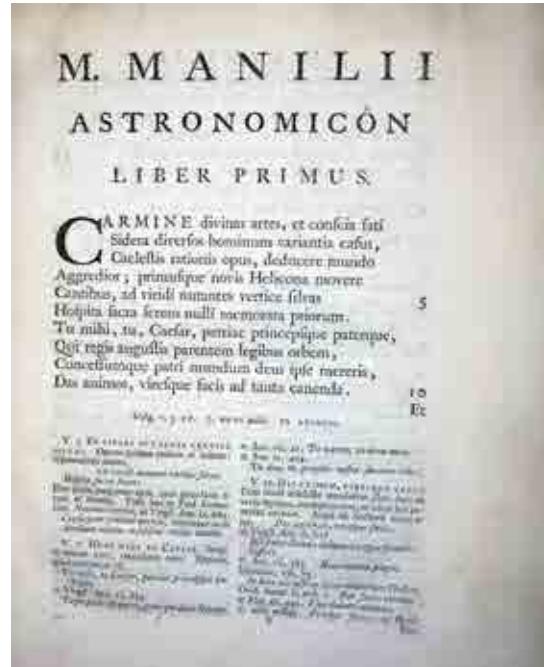
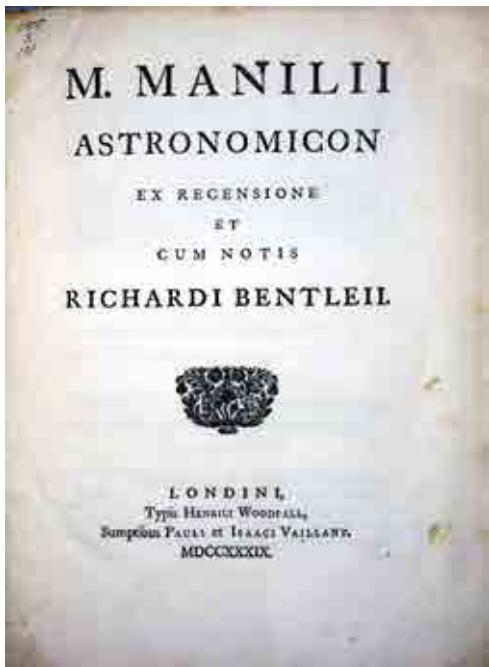
それでも、ポトレマイオスはマニリウスの名にふれることなく十二宮を論じている。マニリウスとはまさにそうした存在であったのかもしれない。それだけに、スカリゲルがマニリウスを取り上げ、その『アストロノミコン』の研究を行った意義は大きかったといふことができる。



■スカリゲルによるマニリウス『アストロノミコン』研究(1679年)

30. M. Manilius Astronomicon : interpretatione et notis ac figuris illustravit Michael Fayus ... jussu Christianissimi Regis, in usum Serenissimi Delphini : accesserunt V. III. Petri Danielis Huetii animadversiones ad Manilium & Scaligeri notas, Parisiis : Apud Fredericum Leonard Regis, Serenissimi Delphini, & Cleri Gallicani Typographum, 1679, 26 cm

※1679年パリにて刊行された Michael Fayus による版。

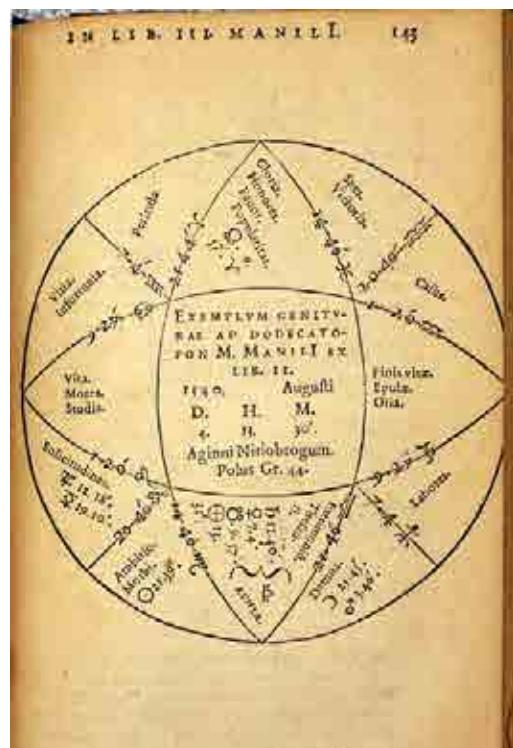


■スカリゲルによるマニリウス『アストロノミコン』研究(1739年)

31. M. Manilius Astronomicon / ex recensione et cum notis Richardi Bentleii, Londini :

Typis H. Woodfall : Sumptibus P. et I. Vaillant, 1739, 26 cm

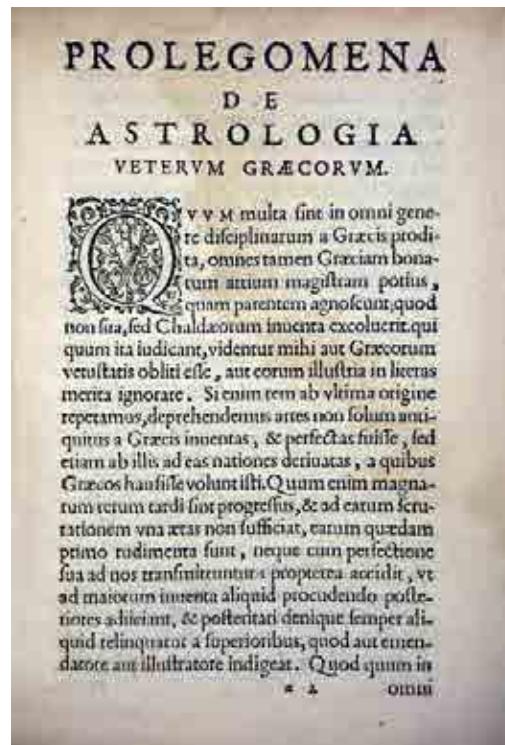
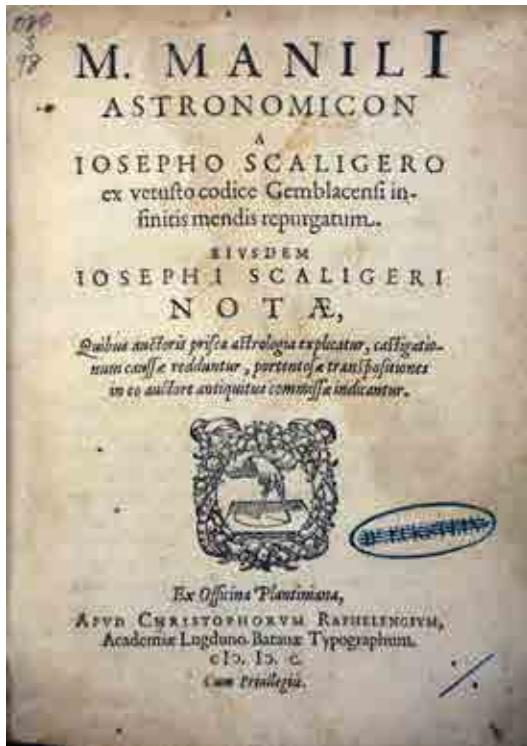
※1739年ロンドンにて刊行されたRichard Bentleyによる著名な版。



■スカリゲルによるマニリウス『アストロノミコン』に関する研究(初版 1579 年)

32. M. Manili Astronomicū libri quinque / Iosephus Scaliger Iul. Caes. F. recensuit, ac pristino ordinisuo restituit. Eiusdem Ios. Scaligeri commentarius in eosdem libros, & castigationum explications, Lutetiae : Apud Mamertum Patissonium Typographum Regium, in Officina Roberti Stephani, 1579, 17 cm

※スカリゲルによる最初の『アストロノミコン』に関する研究書(パリで刊行された初版本)。本書が後のマニリウス研究に影響を与えた。右の写真が天球図上で獣帶を分割した十二宮の図で、スカリゲルが独自に考案した。



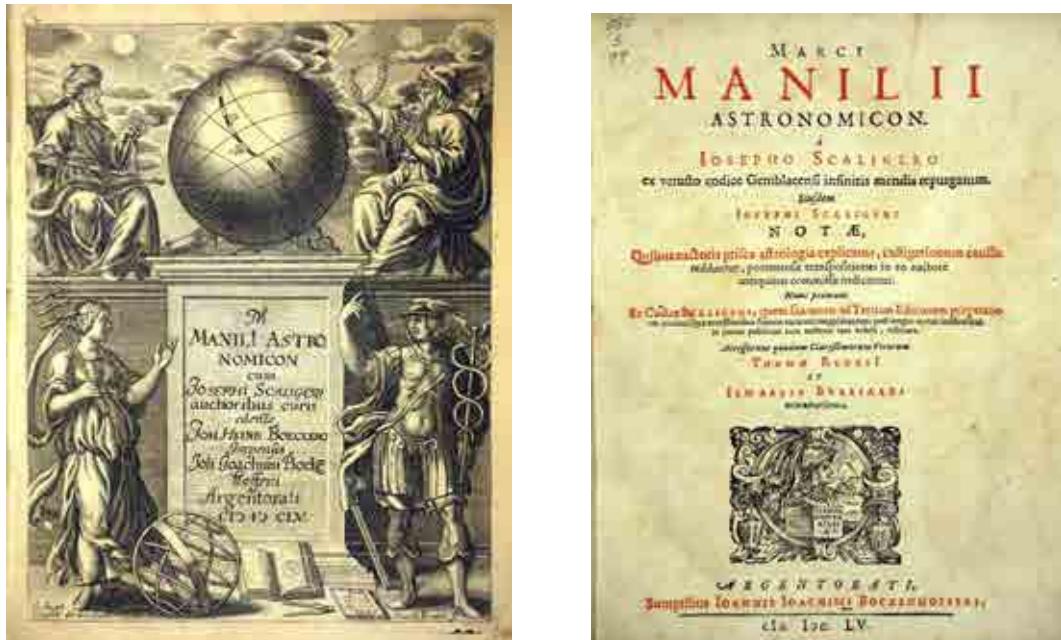
■スカリゲルによるマニリウス『アストロノミコン』に関する研究(第二版 1600 年)

33. M. Manili Astronomicon a Iosepho

Scaligero ex vetusto codice Gemblacensi
infinitis mendis repurgatum : eiusdem
Iosephi Scaligeri notæ, quibus auctoris
prisca astrologia explicatur, castigationum
caussæ redduntur, portentosæ
transpositiones in eo auctore antiquitus
commissæ indicantur, [Leiden] : Ex Officina
Plantiniana, apud Christophorum
Raphelengium, 1600, 20 cm

※ライデンで刊行された版。天

はなく正方形で描かれている。

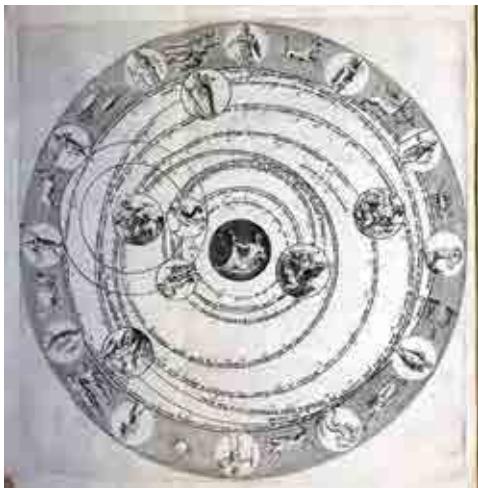


■スカリゲルによるマニリウス『アストロノミコン』に関する研究(第三版 1655 年)

34. *Marci Manilius Astronomicum à Iosepho Scaligero ex vetusto codice Gemblacensi infinitis mendis repurgatum : eiusdem Iosephi Scaligeri notæ, quibus auctoris prisca astrologia explicatur, castigationum caussæ redundunt, portentosæ transpositiones in eo auctore antiquitus commissæ indicantur nunc primum ex codice Scaligeri, quem sua manu ad tertiam editionem præ parauerat ... : accesserunt quædam clarißimorum virorum Thomæ Renesi et Ismaelis Bullialdi animaduersiones, Argentorati : Sumptibus Ioannis Ioachimi Bockenhoferi, 1655, 21 cm*

※1655 年ストラスブルクにて刊行。第三版にして最も完成された版である。とくに、初版でヘブライ語で記された箇所をアラビア語でも記すなど、内容により一層の充実が見られる。





■グロティウスの『天文学書』(1600 年)

35. Hvg. Grotii Batavi Syntagma Arateorum : opus antiquitatis et astronomiæ studiosis utilissimum : quo quæ contineantur versapagella indicabit, [Lugduni Batavorum] : Ex Officinâ Plantinianâ, apud C. Raphelengium, Academiæ Lugduno-Batauæ typographum, 1600, 24 cm

※フーゴー・グロティウス(Hugo Grotius: 1583-1645)による天文学書。1600 年ライデンにて刊行。天文学に関するギリシア語文献をグロティウスがラテン語に翻訳したものである。星座が素晴らしい版画として印刷され、黄道十二宮についてアラビア語とヘブライ語での名前が論じられている。1603 年にヨハン・バイエルによって出版された星図書『ウラノメトリア』(VRANO-METRIA、バイエル星図とも呼ばれる)の星座絵図にも影響を与えたとされる。

◇スカリゲルによる「年代記研究」

スカリゲル自身の研究で注目に値するもう一つは年代記に関するものである。スカリゲルは “*De emendatione temporum*” (『暦の訂正について』) なる著作をあらわしている。この書は古代末期の年代記の校訂版で、時間計算の方法に関する研究書である。

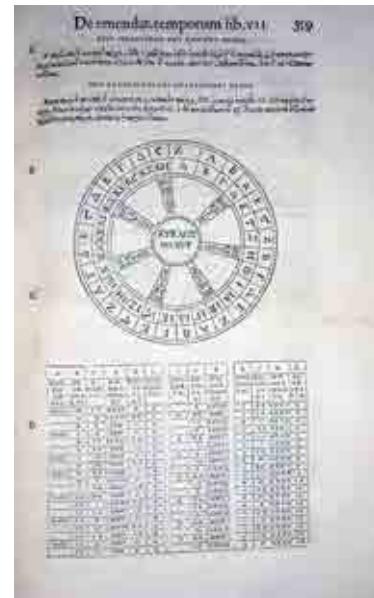
本書において、スカリゲルは、自らの古典研究やラテン語、ヘブライ語等の諸言語に関する広範な知識を用い、それまでの年代学研究を融合させて統合をはかっている。とくに、暦の計算表はスカリゲル自身の年代学における総合的な知識を示すものと理解される。実際、本書はスカリゲルの天文学および年代学研究の頂点に位置するものであり、これによって学問的名声を得たということができる。



■スカリゲルによる「年代記研究」(1593年)[次頁の図も同様]

36. *De emendatione temporum Iosephi Scaligeri Iulii Cæsaris F. : opus novum absolutum perfectum : octo libris distinctum ... : omnibus politioris literaturæ, in primis historiarum & philosophiæ studiosis vtile & necessarium, cum privilegio Cæsareæ maiest. -- Apud Ioannem Wechelum, sumtibus Nicolai Bassæi Typographi, 38 cm*

※展示している書は 1593 年にフランクフルトで出版されたものとされる。初版は 1583 年に刊行。



* * * * *

■古代ギリシアに関する研究書(1622年)

37. *Tou en aγιῳ πατροῳ*

ημων Επφανιου

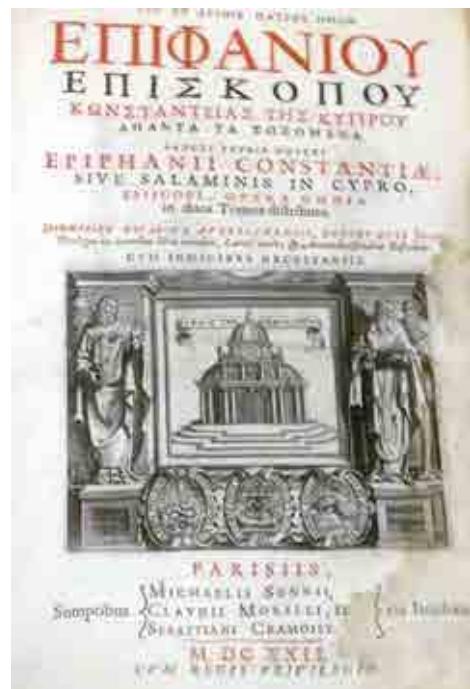
επισκοπου

Κωνσταντειασ τησ

Κυπρου απαντα τα

Σωξομενα

= Sancti Patris Nostri Epiphanii Constantiae,
sive salaminis in Cypro, episcopi, opera
omnia / Dionsius Petauius Aurelianensis ...
ex veteribus libris recensuit, Latinè vertit, &
animaduersionibus illustrauit ..., Parisiis :
Suptibus Michaelis Sonnii, Claudi Morelli,
et Sebastiani Cramoisy via Iacobæa, 1622, 38
cm



◇あとがき～古書が伝えるもの◇

本展示企画は、東海大学中央図書館最上階に眠る膨大な貴重書コレクションと向き合うことから始まった。

本学図書館には、ヨーロッパ文化に関連する古書籍だけでも、本展示会でも紹介したスカリゲル・コレクションのほか、ダンテ、スピノザ、カントの名をそれぞれ冠する、各数百冊以上にも上るコレクションが所蔵されている。それ以外にも、15世紀の活版印刷確立後まもなく出版されたいわゆる搖籃期本（インキュナブラ）や、ヨーロッパ美術・建築史や科学史上の名だたる古典などがずらりと並ぶ。その豊かさは驚嘆すべきものであるが、残念ながら学内においてさえ、これら貴重書の存在が十分に認知されているとは言い難い。そこで、今回のBunkamuraミュージアムの展覧会「神聖ローマ帝国皇帝ルドルフ2世の脅威の世界展」とのコラボレーション企画に鑑み、私たちはまず関連するテーマを構想し、紹介する書籍を絞り込んで、このような稀観本の価値や面白さをもっと広く多くの方に知っていただくことを目指した。

展示の基本的構想は、古典とその継承としてのルネサンス、そしてその更なる展開としてのバロックにおけるヨーロッパの知と技の展開を、書籍という“生き証人”を通じて感じてもらう、ということであった。バロックとは元々16世紀後半から18世紀前半にかけて現れた芸術様式に対し用いられる概念であるが、今日ではより多様な人間営為に対しても使われる。その性格は端的にいえば、動的で、混沌として、ドラマティックということである。Bunkamuraミュージアムの展覧会の主役である皇帝ルドルフ2世のコレクションにも現れているように、バロック期はヨーロッパがルネサンスの遺産を継承しつつ、宗教戦争の荒廃の一方で新時代へと向かうエネルギーを醸成させるときであった。近代科学成立前夜のそのようなエネルギーと、混沌として少し不思議な知と技の世界を体験してもらうべく、スカリゲルやキルヒャーといった典型的な“バロック的”知識人の著作を展示の中心に据えた。スカリゲルはその知の広さから最後の“ルネサンス的普遍人”的一人とも称される。その蔵書からはヨーロッパ世界の古典的知の伝統の重みと、宗教・科学・技術・歴史といったあらゆる人間営為が一体となった、知の総合性ともいいうべきものが感じられる。キルヒャーの場合もまた同様であるが、そのカオスともいえる知の姿は、今日の私たちにとってどんなに奇異に見えようとも、人間がたどってきた知の歴史の一端に他ならないのである。

本展示会の準備に際して、スタッフは何度となく、先に述べた中央図書館の貴重書の保管庫を訪れた。そこはまさに、人間が100年、1000年という年月をかけて築き上げてきた知の収蔵庫であり、このような気の遠くなるような地道な知の蓄積があればこそ、今日の文明があるのだということを実感する場所であった。今回の展示会を通じて、その重みと意味とを少しでもお伝えできていれば幸いである。

（中村朋子）

東海大学付属図書館第65回展示会
「知と技の劇場～華麗なるバロック稀観本の世界」

■主催 東海大学付属図書館

■企画・制作／図録編集

東海大学文学部ヨーロッパ文明学科平野研究室
平野 葉一 東海大学文学部ヨーロッパ文明学科教授
中村 朋子 東海大学現代教養センター非常勤講師
(東海大学大学院文学研究科文明研究専攻博士課程後期修了)
日高 彩乃 東海大学大学院文学研究科文明研究専攻博士課程前期在学
長谷川 彩 前・茨城県近代美術館学芸員
(東海大学大学院文学研究科文明研究専攻博士課程前期修了)

■ポスター・図録表紙デザイン 中村 朋子

東海大学付属図書館第65回展示会
「知と技の劇場～華麗なるバロック稀観本の世界」
2018年1月22日 発行
発行者 東海大学付属図書館
<https://library.time.u-tokai.ac.jp/>
〒259-1292 平塚市北金目四丁目1番1号
電話 0463-58-1211(代)

古典やルネサンスの伝統が継承され、さらには新時代の知へとつながる多様なアイデアが育まれたバロック期 — そこでは魔術・技術・科学・宗教といったさまざまな領域が渾然一体となり、豊かで、そして少し不思議な人間の知と技の世界が展開されました。この時代の証人ともいえる古書籍を紐解くと、そこはまさに“**知と技の劇場**”と呼ぶにふさわしい、ダイナミックで混沌とした魅力にあふれています。

東海大学付属図書館は、16世紀後半に活躍し、最後の“ルネサンス的普遍人”的一人ともいわれたフランス人古典学者スカリゲル（Joseph Justus Scaliger, 1540-1609）のコレクションをはじめ、当時の文化や知識のありようを生き生きと伝える貴重な資料を所蔵しています。このうち、天文学者ヨハネス・ケプラー（Johannes Kepler, 1571-1630）の著書2点とカルロス・クルシウス（Carolus Clusius Atrebatis, 1526-1609）の著書1点が、Bunkamura ザ・ミュージアムで開催中の「神聖ローマ帝国皇帝 ルドルフ2世の驚異の世界展」に出展されています。

本展は、この展覧会とのタイアップ企画として、主に16世紀後半から18世紀前半に出版された、人間の知と技の歴史を語る古書・稀観本の数々をご紹介いたします。近代科学誕生前夜のヨーロッパにおける、バロック的混沌から近代的学問の秩序が形成されてゆくそのエネルギーをご体感ください。



UNA AGGREGATA DELLE INVENTIONI DI UN QUARTO
di se, e gran numero di Pala^{ti} publici, e privati nella Città, & in Villa,
e varij accidenti, che possono occorrere nel fabricare.

DIVISO IN SETTE LIBRI.
Con yn' Indice copiosissimo con molte Considerationi, & vn breve
Discorso sopra questa materia, raccolto

DA M. GIO. DOMENICO SCAMOZZI VICENTINO.
Dinuovo ristampate, & con ogni diligenza corrette.

